ローマへの道

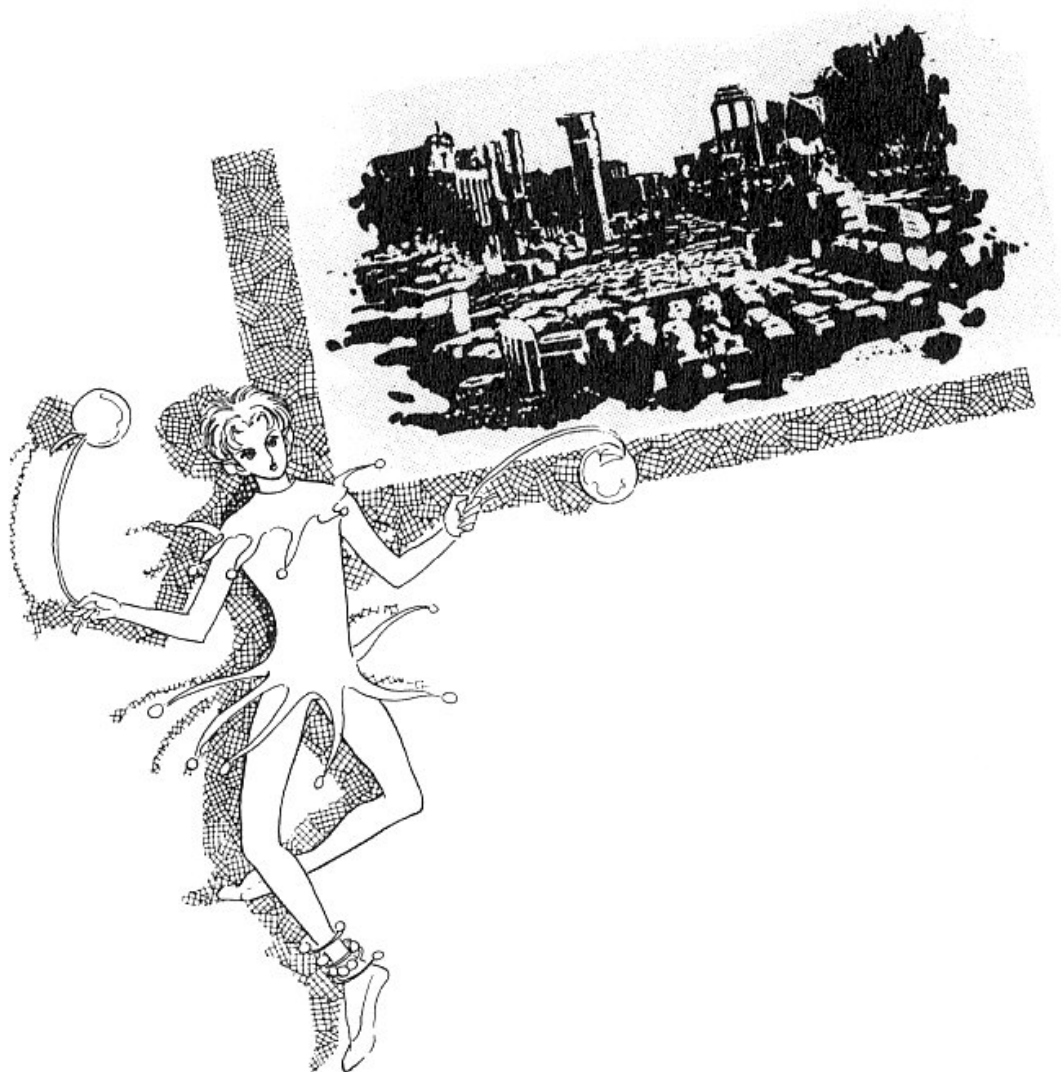
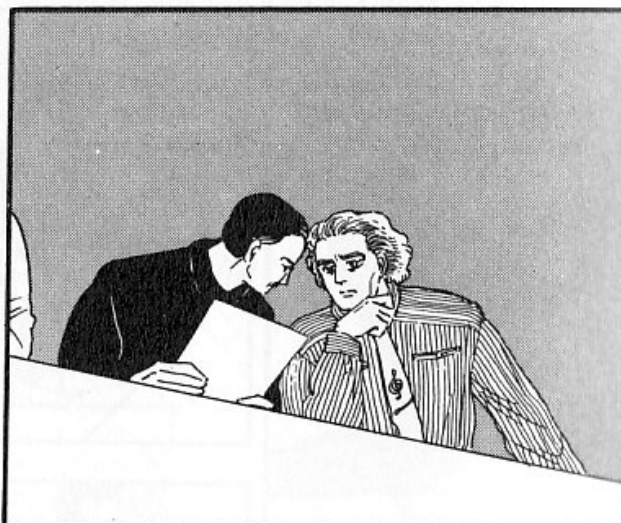
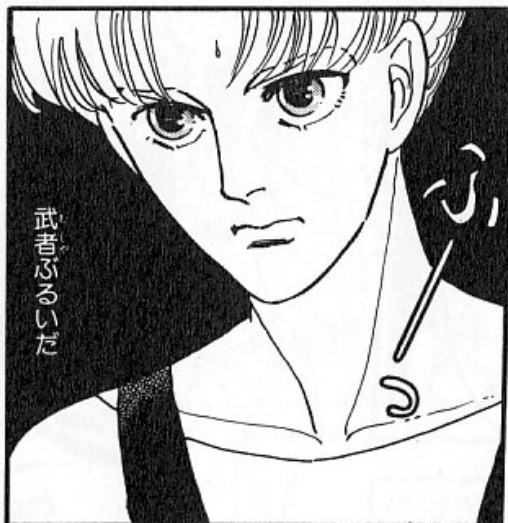
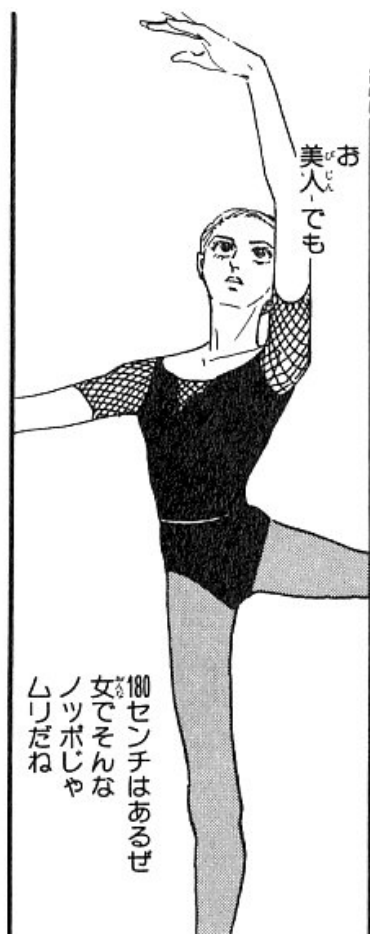
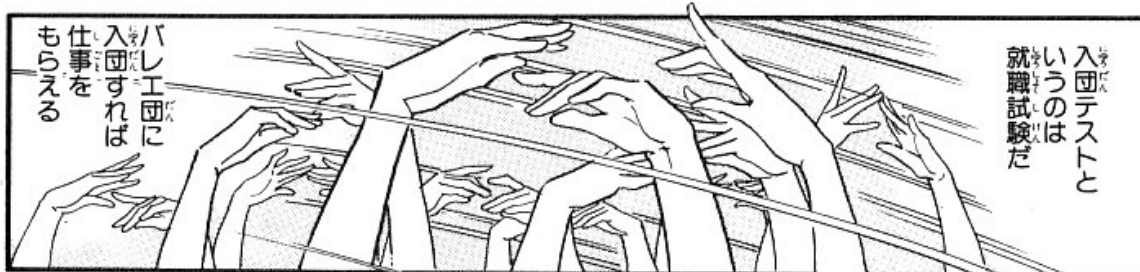
ぼくは
ローマで生まれた
だけど
とてもとても
とても小さかったので
なにひとつ
ローマのことは知らない

パリ――3月

ドミ・ド・リール
バレエの
オーディション

ぼくは

絶対!

合格してやるぞ!

とと
なんだあいつ
着地がひとつも決まらない
クスッ
ズシ
ヨロロ
カッコつけてるわりには足がのびてないぜ
お美人・でも
180センチはあるぜ女でそんなノッポじゃムリだね
入団テストというのは就職試験だ
バレエ団に入団すれば仕事をもらえる
役しだいではスターになれる
あの子…地味な踊り方だけど
基礎がちゃんとできてるな
バチン
かわいいし

みなさん
ご苦労さまでした
合格者を発表します
彼女受かればいいなあ
17番ディディ・アンデルセン
ザワ
うわあっ
はいっ
うわあ
あのよろけてたやつじゃないか!
13番シルビア・マレー
ははは
はい
えーつあのノッポ!

34番 ラファエラ・ロッティ
は…い
チラ
これで……終わりか?
自信があったのに……
51番 マリオ・キリコ
やったっ!!
以上です
信じられない! 信じられない!
CAFE

ドミ・ド・リールに入れたなんて！
あたしが受かるなんて！
オメデトー！
諸君よろしく！新団員の未来にカンパイ！
でもマリオきみは絶対合格だろうなと思ったよ！
一番うまかったものォ
いやあディディ
こいつキューピーに似てる……
そうさ！バレエは5歳からやってるし
ブラッセルのバレエ学校ではずっと主役を踊ってたんだ
ピカッ
ベルギーで兵役をすませたばかりで
一年間ろくに踊ってないからこわかったよ
ハラキ
あぼくも兵役終えたばかりなんだ
19さい
これからは思うぞんぶん踊れる！バンザーイ！
きみ——ラファエラだっけ

ええ
ラエラって
呼んで
シェルブール
出身です
よろしく……
ハタチです
ムード
いいけど
内気そうな
子だな
あたし
シルビア
24さいよ
リヨンで
知りあいの
バレエ学校の
教師を
してたの
身長が
180センチに
なって
バレリーナは
あきらめて
たの
いまも
信じられ
ないわァ
きみって
女優に
なれるよ
美人だもの
グレタ・ガルボみたい
モダン
では
身長も
個性さ
受かったものの
こわい!
あたし
クラシック
やってたし
どきどき
モダンに
ついて
ける
かしら
そう!
こわいさ!
60人集まった
ダンサーの
タマゴから
ド・リールに
選ばれた
こわさだ!

ぼくらは
いずれ
明日の
スターだ!
スターー!
いつか!
夢
夢
きっとーー!
夢だらけの
毎日だ
うわーーオオ…

ハイ・レベルよ
違うわァ
やっぱり
「ダイヤモンド」の
アグネスが
目の前のバーで
踊ってるのよ
すごいわ
ふー
ほーっ
だよねー
オデオン・スタジオの
近くに
安い
下宿
ないかな
いま
クリニャンクール
だから
遠くて
下宿なら
…失礼
伝言板に
いくつか
出てたわよ
ガタ
わっ
「ダイヤ
モンド」!
どど
もビ
ある
ある
マリオ
足が地に
ついてない
わよ
これ
いいな
すぐ
ウラだ
空き部屋あり
共同生活
レヴィ・ド・
ラヴォアール
スゴイ!!
レヴィと!?
「ダイヤモンド」に
声をかけて
もらった

あの人よ!
あの人
クラシックの
王子サマ型
ね…
女たらし
そうな
ツラだな…
そうなのよォ
ロイヤルの
ソリストだった人よ
モダンやりたくて
二年前 ド・リールに
来たんですって
あァ
空き部屋の
こと?
マリオ・
キリコ
です
きみ
ホモじゃ
ない?
暴力
ふるうとか
夜中に
わめくとか
そういう
クセ
ないね?
な
なんですか
それ
なきゃ
いいんだよ
部屋
見る?

すぐ そこ
レヴィ
あ 彼今日 出てくから
オレ 酔ってたんだよ
あァ
これからも 友人で いてくれる だろ?
あァ バイバイ
悪いやつじゃ ないんだけど 人のベッドに 入ってくるから
……
よかった いい部屋が 空いてて
かたづいた?
だい たい
これ 家族?
あ そうです
ブラッセルに 住んでます
…

ド・リールの入団をとても喜んでくれて
黒髪一家にきみだけ金髪？鬼ッ子かな？
……
鬼ッ子っていうか……
ぼく養子だもんで
両親が死んでおばさんちに引きとられたんです
それでいじめられてヒネた？
ヒネてなんかいませんよなんかドラマにしたがってませんか
夜きみは一人思う…
はァ
ぼくの本当のお父さんとお母さんてどんな人だったろう一生遊んで暮らせるような遺産をくれてたらよかったのに……
ドラマにするなっ！
ぐーたらなヤツ

あれ今年入ったやつだろマリオって
なかなかやるぜオイ
やるさ！
いつまでもビクビクの新人じゃいないぞ！
すぐ追い越してやるからな
すごいなーマリオぼくなんか
こんなへたじゃ来年はクビかも……
団員契約は一年ごとだから
クビになるのはほかのやつさディディ
ぼくら若手はこれからさ！

ドミ・ド・リールの名をあげた花形スターたちものきなみ30歳そこそこだ
男性ダンサーとしてはもう下り坂だぜ…
そろそろ若手スターが必要な頃のはずだ！
若手じゃレヴィとかいるだろ…
レヴィなんて不まじめさ！ヒマがあれば遊びまわってさ
チャンスをつかんでやる
いつかドミ・ド・リールの目にとまってやる
バリシニコフやムハメドフに世界がどよめいたように
ぼくもいつか
世界を打ち鳴らしてみせる

秋の公演が決まった

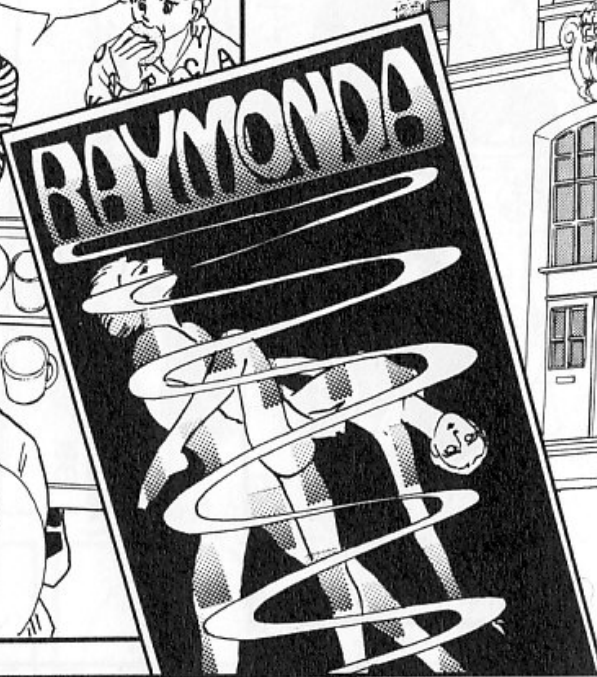
ド・リールの新作で現代版「ライモンダ」

あんな古典をどうやって現代版にするんだろ

恋する王子様とお姫様と

RAYMONDA

お姫様に強引にいい寄るサラセン人の話でしょ

要するに三角関係よね

上品であたしは好きだけど……

ぼくは一度見たけど長すぎて退屈したなー

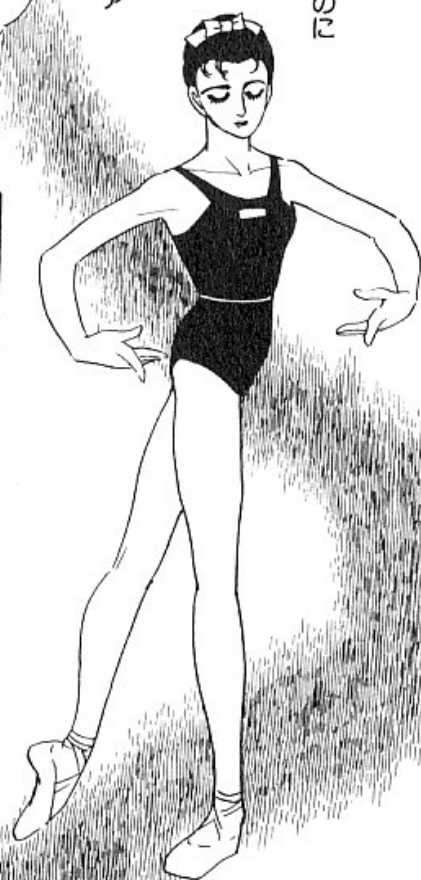
配役が発表された
ぼくらは群舞――か
時の精…にシルビア？
あのノッポに役が!!
ドキン
♪オメデトー
すごいじゃないか！
この身長では群舞はムリだって同情されたのかもしれない
ドキドキだわあ
ド・リールにはバレエ界の階級制度ともいうべきスター・システムがないから
プリマとかエトワールとかプリンシパルとか…
いつ誰に主役が来てもどんな役が来てもおかしくないんだ
群舞とはいえぼくは最前列になった!!
これで評判あげて次はもっと目立つ役をもらってやるぞ

ティティなんか王子の脱ぐマントを持つだけなんだ
ヨロロ
レヴィはソロデュエットも踊る
まじめに練習してるようではないのに……
うまい
それがあたしフリコの上で立ってるだけなのよォ
両親がリヨンから見に来るってハズカシイ
いーじゃないかうちも見に来るって
マリオんちは？
なにも群舞ぐらいで
うちは遠いからなブラッセルだし……
ラエランんちは？
え…
パパはちょっと遠いし……
ママはシェルブールでカレと新婚生活してるし……
来ないと思うな

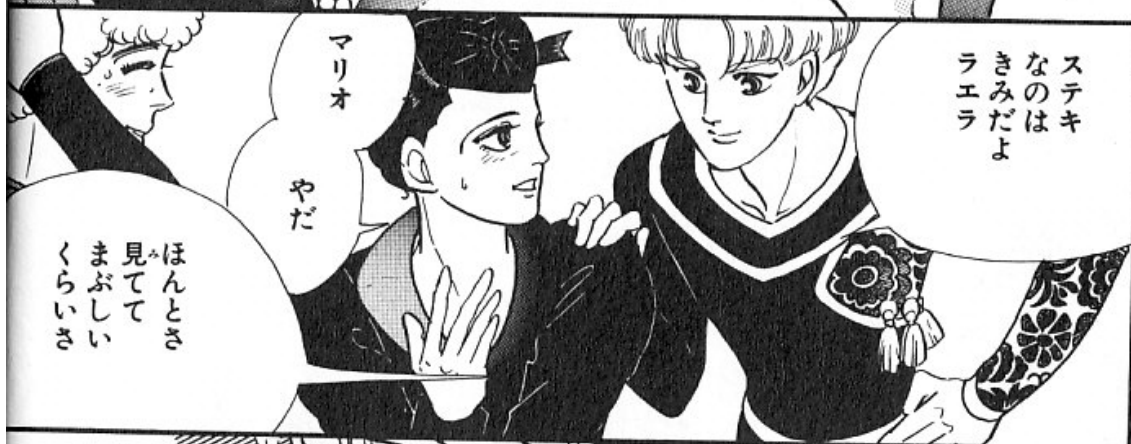
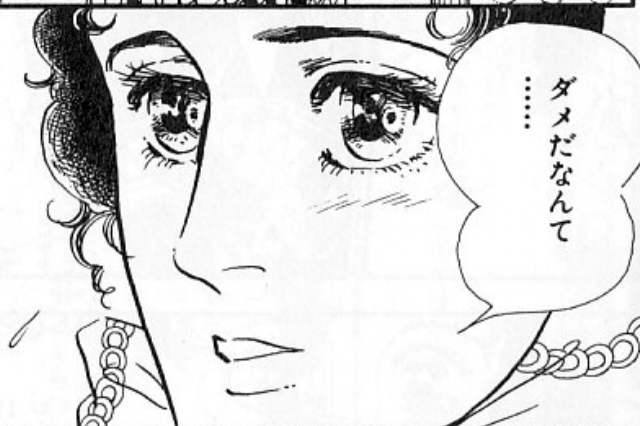
……ラエラの両親て離婚組かァ
いつもニコニコしてるから悩みなんてないと思ってた
彼女がわりと無口なのは
さみしんぼのせいかな
ラテン風の黒い目の顔は目立つのに
いつも引っこみ思案に踊るんだなァ
ぼくきみの踊り好きだなァ
え
やだ
ほんとさうまいしきれいだし
ムードもいいし…
フォンティーンかポントワか!
ほらほらそれぐらい明るい顔して踊んなよもったいない
どうしたのよマリオったら

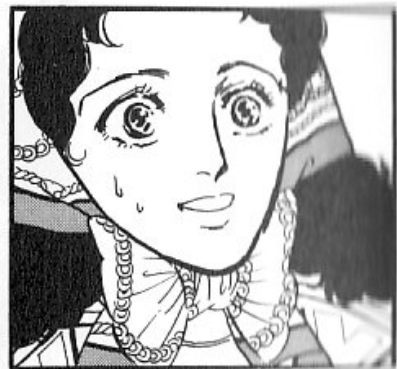
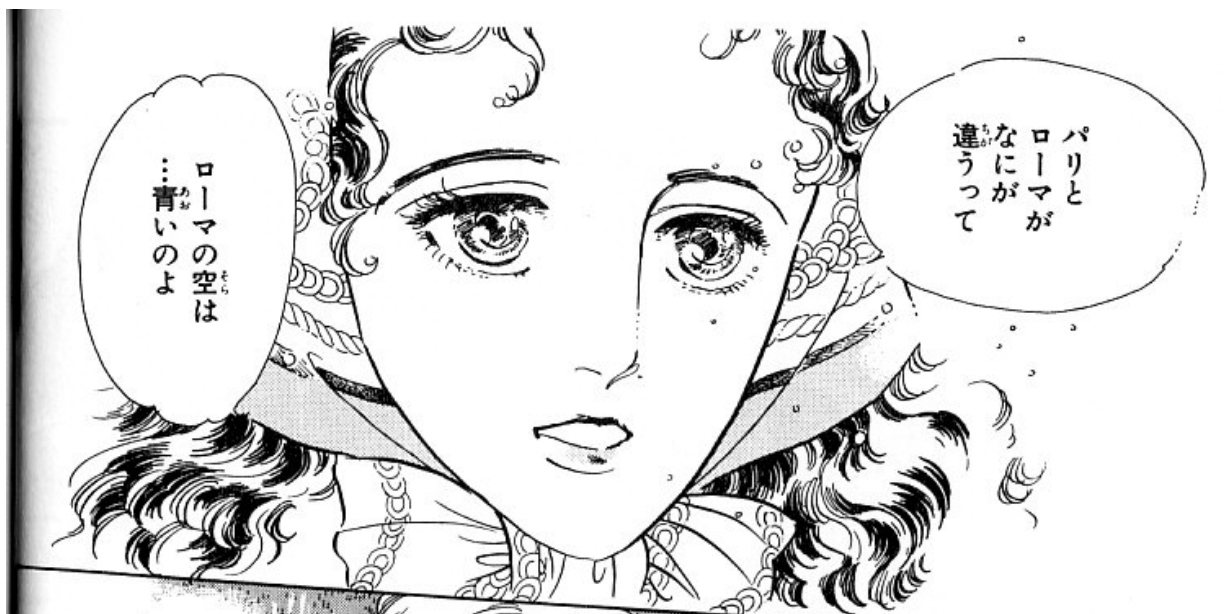
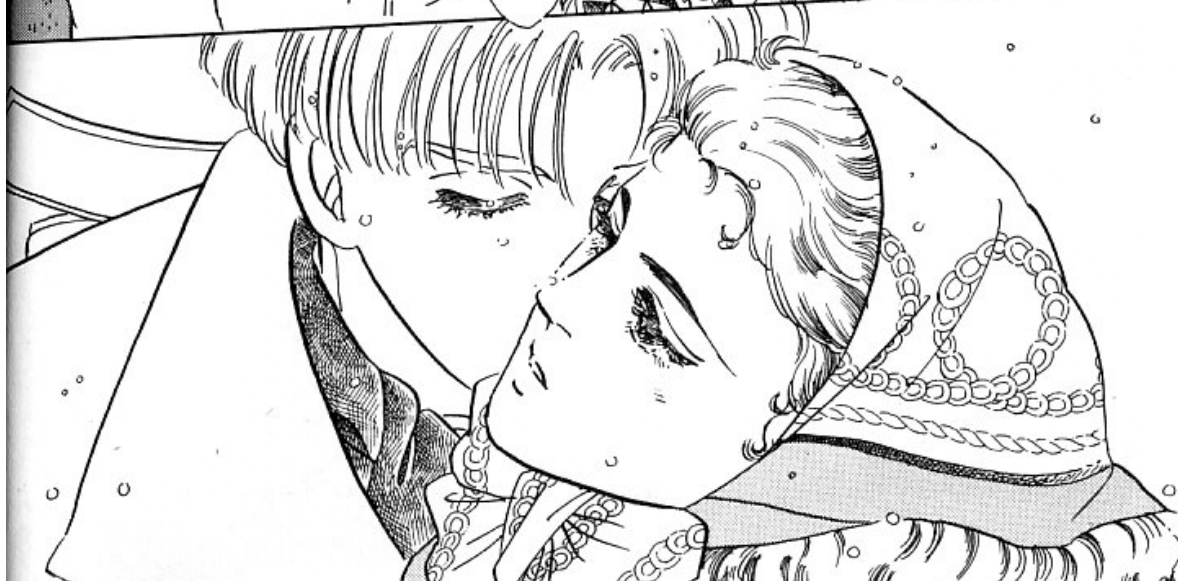
王子のマント持ちだったディディが途中から
新しくつくられた〝王子の弟〟という役についた
ちょっとアイデアが出てね

も　もたないよ
王子に近寄るたび〝ベタ〟って目で見られて
あたりまえだろっ
ふえ〜ん
チャンスだろ　がんばれよ　ディディ！

そんなに登場するわけでもないが
最後のマズルカ・シーンではライモンダにずっとつきそっている
狂言まわしのような弟の役は

舞台が
あけてみると
兄の恋人
ライモンダに
片思いの
弟――ともとれる
物語に
なって
しまっていた
ジュテや
アラベスクのたび
よろめく
ディディは
必死の
形相で
それが　また
痛いたしく悩む
若者に　見える
まぐれか…
こんなに
弟役が
ディディに
合うなんて
いや！
まぐれじゃ
ない
プロである
ドミ・ド・
リールが
まぐれで役を
振りあてる
ものか

ディディが与えられた以上の役を踊ってしまったのだ
ぼくはもうひとつ発見した
群舞のラエラだ
うまい！

ラエラがこれほど舞台で栄えるとは!
ステキよディディ
そ そうかなァ
毎日よくなっているわよ
もしかしてこの二人がド・リールの明日のスターか?
ステキなのはきみだよラエラ
マリオ
やだ
ほんとさ見ててまぶしいくらいさ
ディディにみすみす
ラエラはわたさないぞ

ラエラ! 送るよ 待って!
マリオ
あたしの下宿 地下鉄で 20分も かかるのよ
……雨だし
明日も舞台なのに
ダメ?
ダメだなんて……
METRO
きみのママ 見に来た?
ママも 忙しいから…
PRIX DUMIS
え…!
ほんとは パパに見て ほしかったな……
遠いって いってたね
ローマなの
……時どき 帰りたくなるな…
カタン
カタン

ラエラ ローマ生まれ？ ぼくもだよ
え…え!?
マリオ…イタリア人なの？
だって……ベルギーで兵役終えたって
うち一家で帰化したんだ きみこそシェルブールだって
やだー イタリア語は!?
うん なんとか
あたし あたしね 13まで ローマにいたのよ
ラエラはイタリア語でしゃべり出した！
親が離婚して
母について フランスに来たんだけど
もォ ヒサンな青春だったわよォ フランス語なんてしゃべれないし
シェルブールなんて やたら寒いし
頭にきて まる一年 不良少女なんて やったりしてさ
あははは

イタリア語だとしゃべるんだね…
そうね
やっぱり気持ちこめやすいから……
マリオは？
ぼくは……
四つのときまで住んでた……
四つのとき両親が病気で死んじゃってね
やはりローマに住んでたおばさん一家に引きとられたんだ
そしてすぐベルギーに引っ越してね
家ではイタリア語外ではフランス語苦労したよ
アハハ
なアンにも覚えてないけど
両親のお墓があるし
ぼくには
特別な街だローマは……
METROLITAIN

パリとローマがなにが違うって
ローマの空は……青いのよ
雨も冷たくはない
暖かいの……
………

きみの家から今夜何度も電話来たよ！
知らなかったなァ
ひょーーっ
ラエラがあんなにおしゃべりだなんて
マリオ？
あ ただいま レヴィ
早く連絡しな！
母から？
いや お父さんて いってたよ
12時だ
ジー
ジー
こんな時間に……？
ルルルル…
ドキドキ

マリオ!
マリオか!
父さん なにかあったの?
すぐ… 帰って これないか
母さんが 危ないんだ
風呂場で 倒れて 意識が ないんだ
医者が 危ない と…
母さん …?
シモーヌ 母さん!
……公演中 なんだ
明日は 昼と 夜も
いつ 終わる
……三日後
ぬけら れない
…そうか ……
初舞台 なのに
容体… どんなふう ?

すまん――
マリオ……
母さんは…もう
亡くなったんだ…
さっき……
一時間ほど前…に
……

父さん
いますぐ
帰るよ
マリオ
帰りたい!

家族?
マリオ?

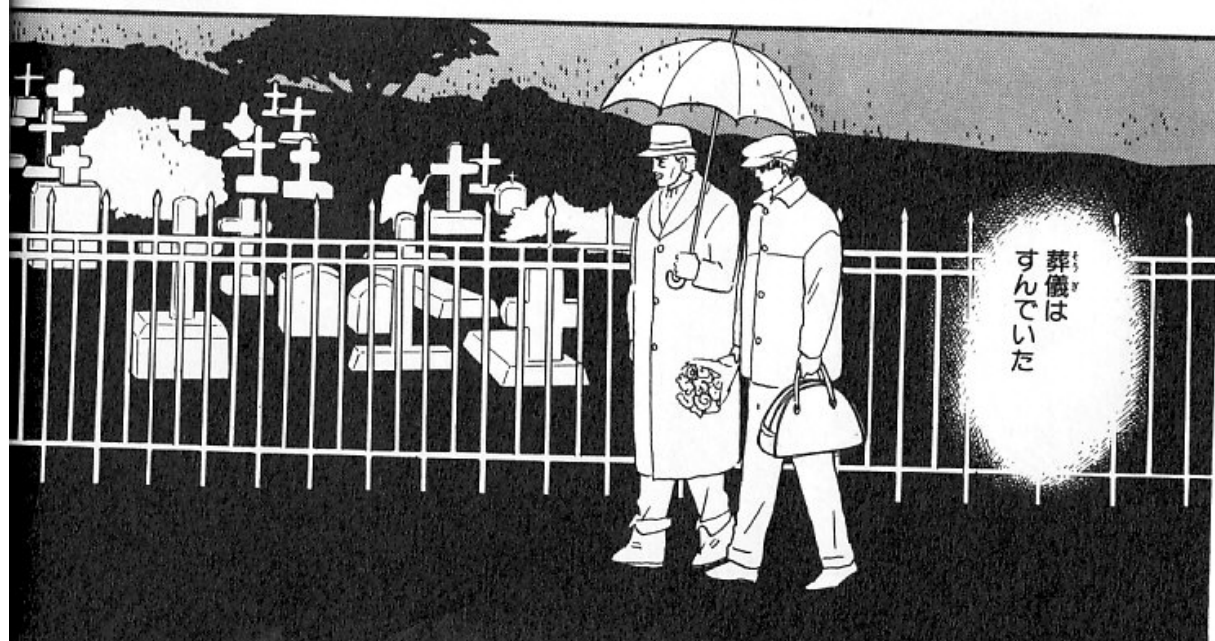
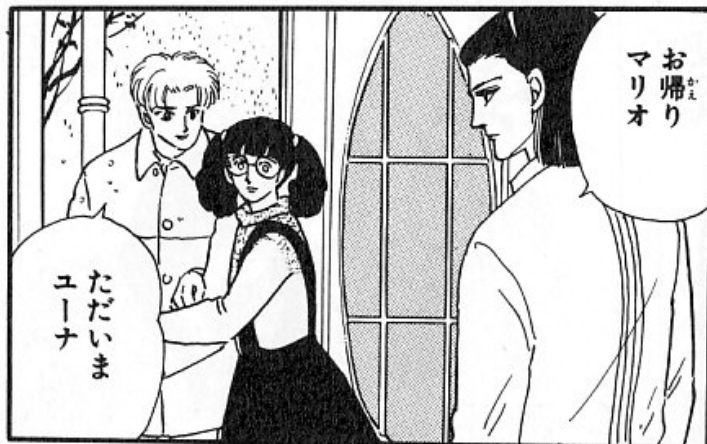
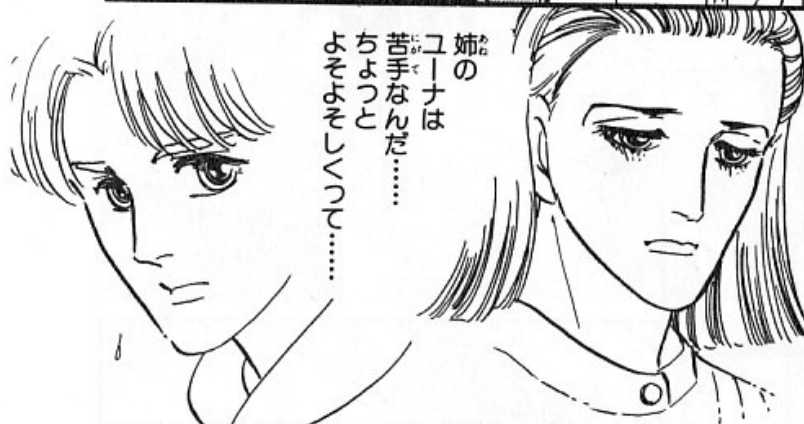
だめだ
母……

帰れない
ディティが準主役級を踊っているときに
群舞のぼくなど代えがきくと宣伝するようなもんじゃないか
チャオマリオ
カゼひかなかった？おやすみっていいたくって……
マリオ……
どうかしたの？
いまお母さんが亡くなったって電話があったんだ
…マリオ…あの…わたし…
そっちへ行きましょうか……
うん……ラエラ…
来てほしい…

パリ
あ
ガラスがはずれちゃった
ごめんなさい
パリに行くってとき
母がもってけってくれたんだ
………
一家そろった去年のクリスマスの写真……
髪の毛だわ…
あなたの？
金髪よ
…いや…？
知らない…
舞台が終わるまで帰らないって……
だいじょうぶ？
すぐさ

ぼくたちは
しゃべったり…
黙りこんだり
した

ラエラは
ずっと
いてくれた
三日後
ブラッセルに
向かった

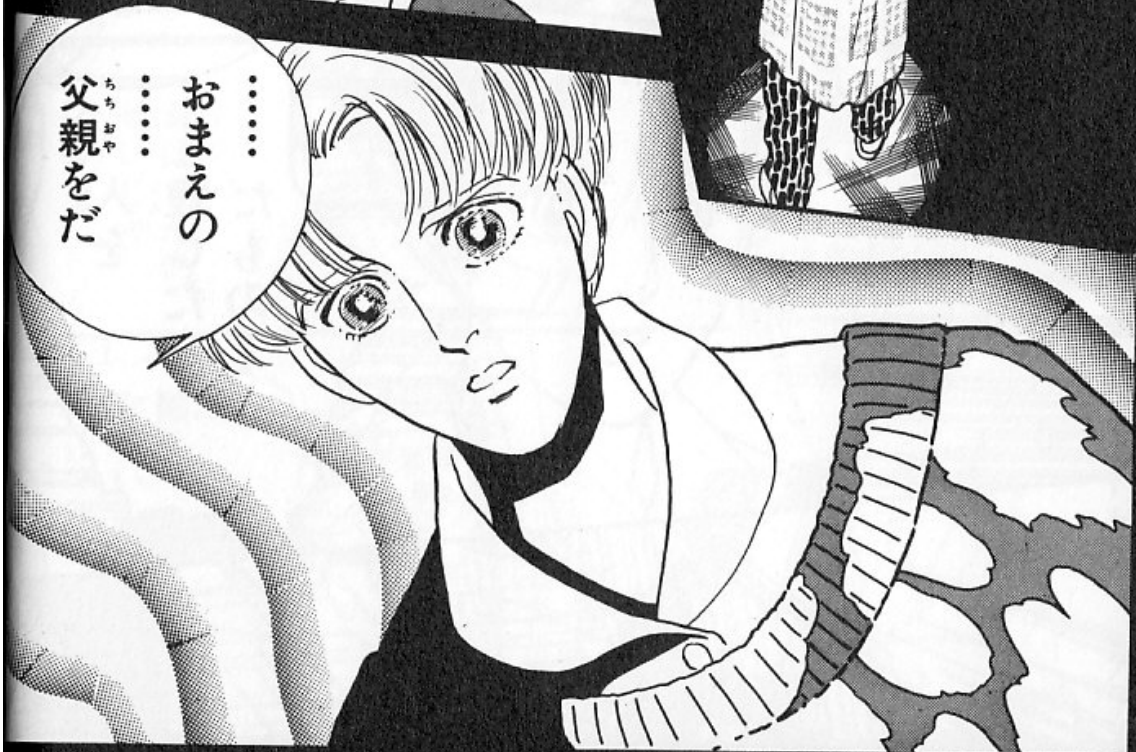
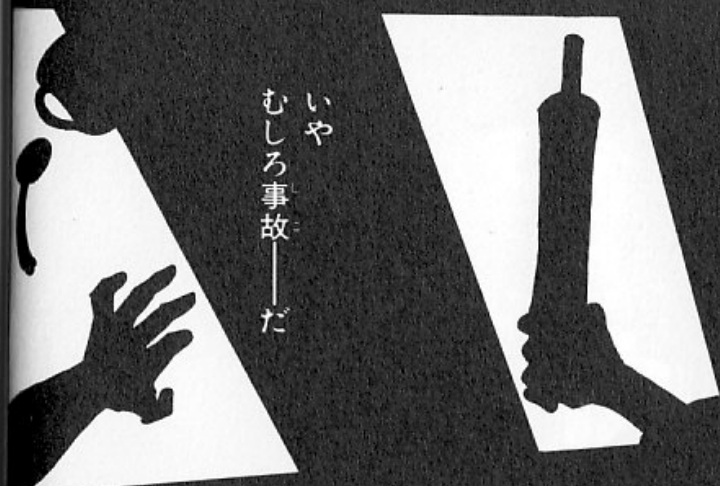
葬儀は
すんでいた

ただいま ブゥー
マリオ兄さん！
お帰り マリオ
ただいま ユーナ
姉のユーナは苦手なんだ……ちょっとよそよそしくって……
ぼくは…なんにも親孝行しなかったね
シモーヌ母さんのエプロンだ
舞台……見に来てもらえばよかった……
マリオ 子供は育つことで孝行するのさ
3人も…子供を育てて幸せなやつだったさ

これで
ぼくの母は
みんな
いなくなって
しまった
ママは
マリオの舞台
天国で
見てるよ
ブゥーなんか
まだ
16なのに…
ねえ
父さん
ちょっと
きくけど
……
ぼくを産んだ
アンナ母さんって
金髪の人
だった？
アンナ？
ああ
そう
アンナ
姉さんの
金髪に
シモーヌは
あこがれてたよ
これ……
シモーヌ
母さんがくれた
写真の裏に
入ってたんだ
アンナ
母さんの
遺髪
だね
きっと
そのうち
ローマにも
行きたいな
両親の
お墓まいりに
……

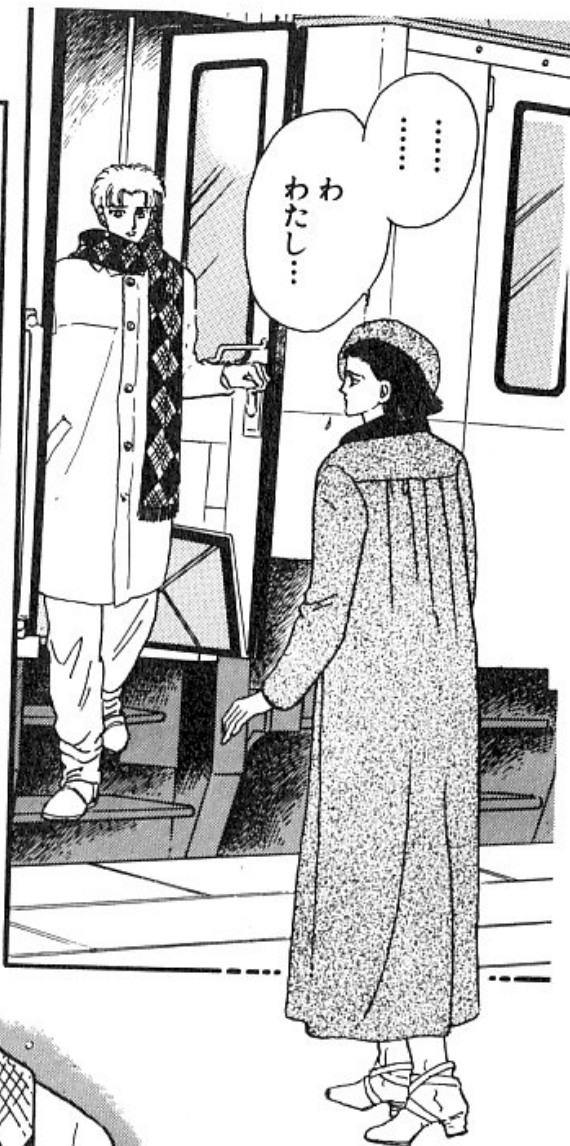
アンナの墓は……ないんだよ
ローマの……老人ホームにいるんだ
……アンナは…
どうして…？あ…の
生きてるの……
ぼくの…母…って…？

いろいろ
あって…
どうして
アンナおばさんが
生きてるの！
ガタン
死んだはずよ！
ユーナ
死んだって
いってた
じゃない！
わたしたちが
ローマに
帰れないのも
うちが
急に
ローマから
引っ越した
のも
あの
おばさんの
せいじゃ
ない！
……ユーナ!?
だ
黙り
なさい
ユーナ！

ママがローマに帰れなくて死んだのに！
あの人はローマで生きてるっていうの!?
ユーナ！なぜぼくの母のせいなんだよ
なぜ！
ユーナ…
だってみんないってたわ！死刑だって！あの人
だって……
人を殺したんだもの！

ほんと?
母が…人を殺し…た……?
父さん ほんと?
ほんと?
殺した……誰を…?
……おまえの……父親をだ

あれは
正当防衛

いや
むしろ事故――だ

アンナと
アントニオは
仲のいい
夫婦だった

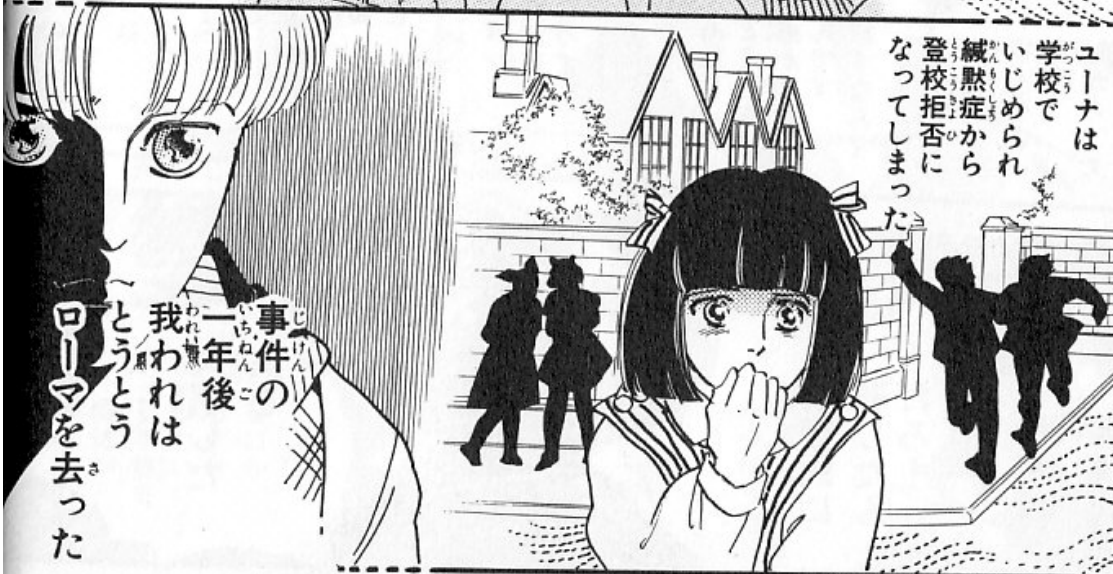
……母が
父を……
殺した……
マリオ……!
マリオ……!
……ユーナ……

……
わ
わたし…
あの……
わたし
あ………
あ
あん
あんなふうに
いいんだ
人殺しの
親の
子供が
いきなり
家に来て
いやだと
思うのは
当然だよ
……
だって
わたしは
八つだった
のよ
誰も
はっきりと
した話を
してくれな
かったし
なにか
お化け
みたいに…
…不安で
得体が
知れなくって

パパも
ママも
あなたと
仲よくしなさいと
いったけど
わたしは
あなたが
怖かった
のよ！
事件は
大きく
大げさに
報道された
保険金
目あての
殺人
なんでしょ
やっかい者の
夫を
殺した妻！
アンナ
姉さんは
そんな
ことは
しません
ペンキぬりの
職人だった
アントニオは
その頃
眼病をわずらい
家で療養
していた
バンバン
あれだけ
なぐって
おいて！
あたり
どころが
悪かった
んです
殺すなんて
ウソ
ゆーなよ
身内
だからって
失明した
夫を
計画的に
殺したん
だろ！
保険金
目あてに

……アンナはうそをついた
わざわざ血のついためん棒を洗い床をふき…
……血のついた自分の服を着替えて
夫が…転んで机で頭を打ったと医者を呼んだんだ…
マスコミに追われてローマ市内を二度引っ越した
シモーヌは疲れはててプゥーを早産し
一時は親子とも危ないほどだった
ユーナは学校でいじめられ緘黙症から登校拒否になってしまった
事件の一年後我われはとうとうローマを去った

ごめん……ユーナ
あんたのせいじゃないわ……
でも……
いいえあんたのせいよ
急にローマから引っ越して……
言葉もわからない寒い街に来て…不安なのに…
ママはあんたと
生まれたプゥーの世話で手いっぱいで
わたしはほっておかれたわ
ママをとられた…
くすん
わたしはダメなの
パパやママみたいによその子でも自分の子と同じに育てられる人もいるけど
わたしはダメなのよ

あんたのせいじゃないのは……わかってる

あんたも事件の被害者だって

――だって親に捨てられたんだもの

アンナは10年の刑を受けた

その後アンナは減刑され7年目に出所した

シモーヌはアンナに手紙を出した

マリオは12になった会いたいことだろう

写真も送った

アンナは会わないといってきた

マリオ
わたしが…いったことを気にしないでほしいのよ……
いったことを後悔してるのよ
ただ長い間……わたしも不安で大変だったのよ
ユーナ
ごめん……知らなくって……気がつかなくって……
そう……知らなかった気の毒なユーナ
……だけど
ぼくとユーナとは世界のどこにいても…相性があわないんだ
相手に同情しながら決して相手を許さない
……気にしないでほしいのよ
あなたのせいじゃないのよ
うん
……パパとプゥーによろしくいって
ガタン
また……帰ってきてもいいのよ
ああ……
ガタン ガタン ガタン

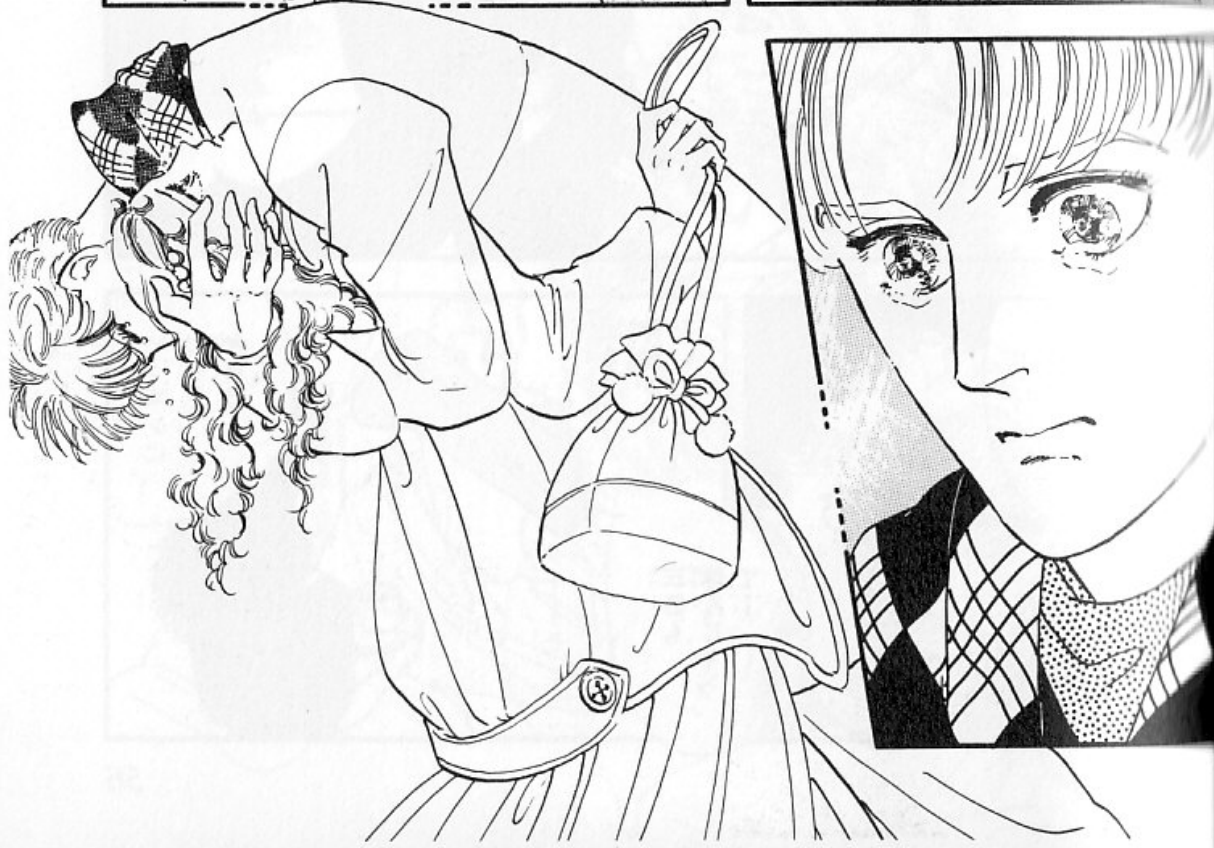
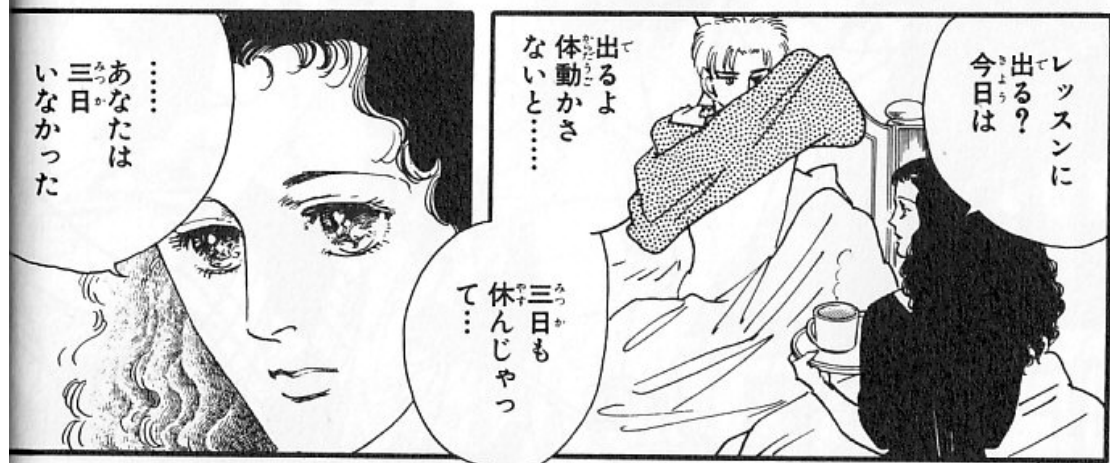
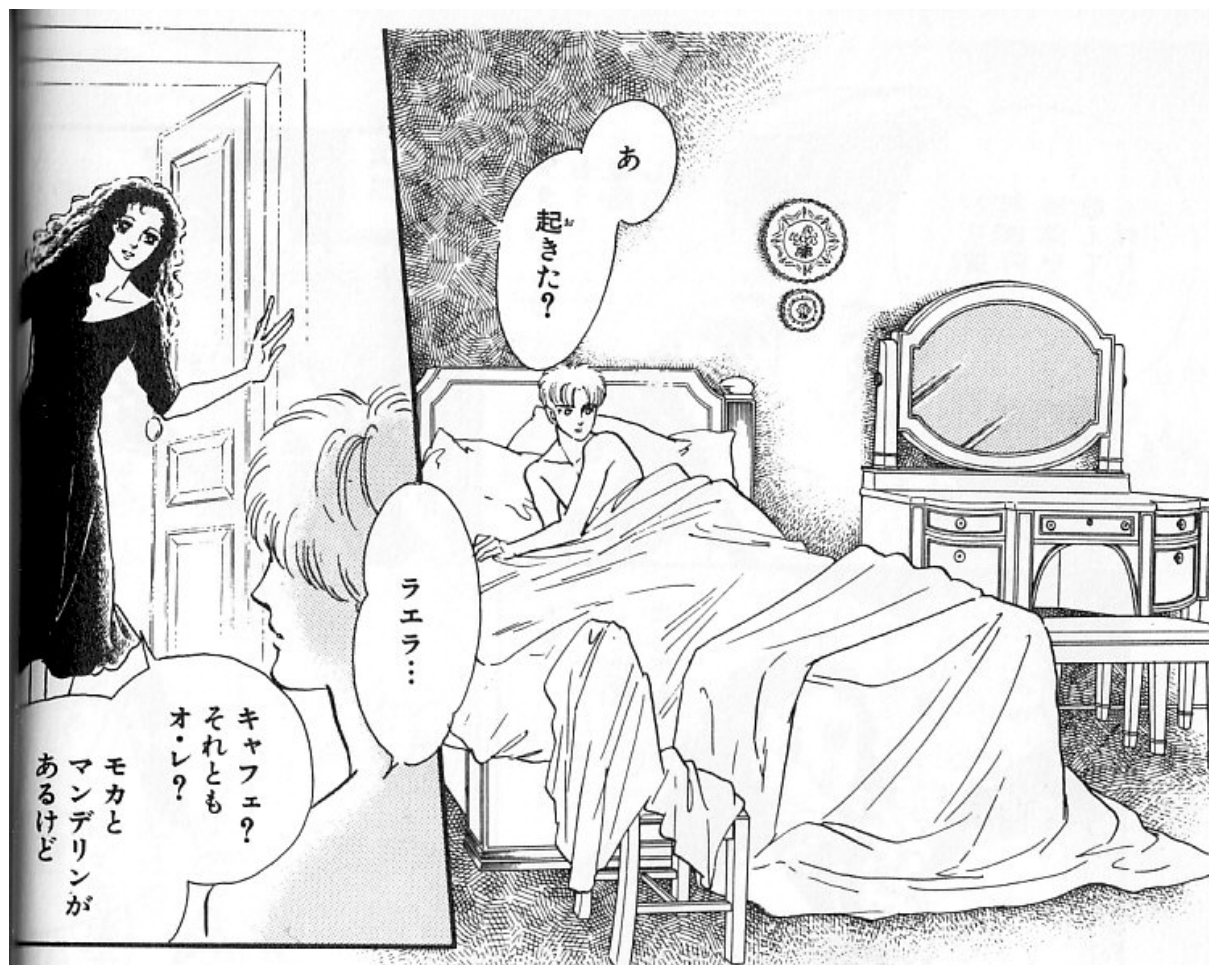
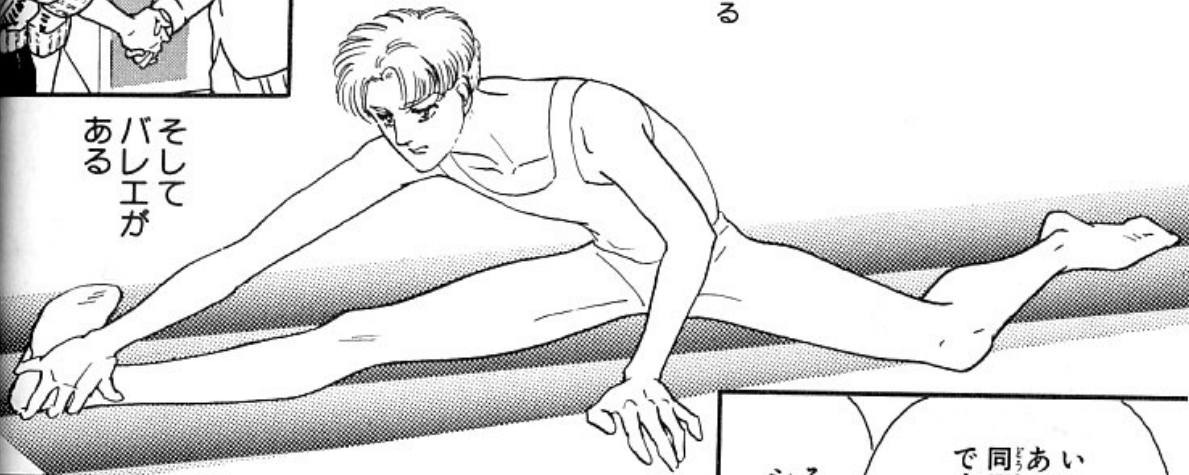
体に気をつけて
……
さよなら
帰る？
あの家へ？
いいや
ぼくは二度と帰らない
この話を……
いつか…しなきゃならなかった
ずっと…心に…かかってた…
おまえがローマに行くといいだしたら…
そのとき話そうと決めていたんだ…
ききたくなかった
どんな話でもこんなふうにききたくなかった

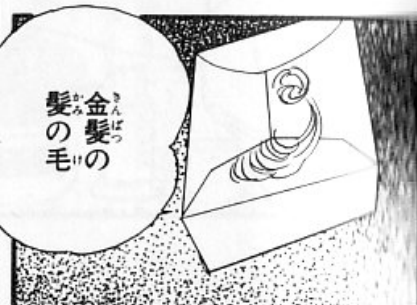
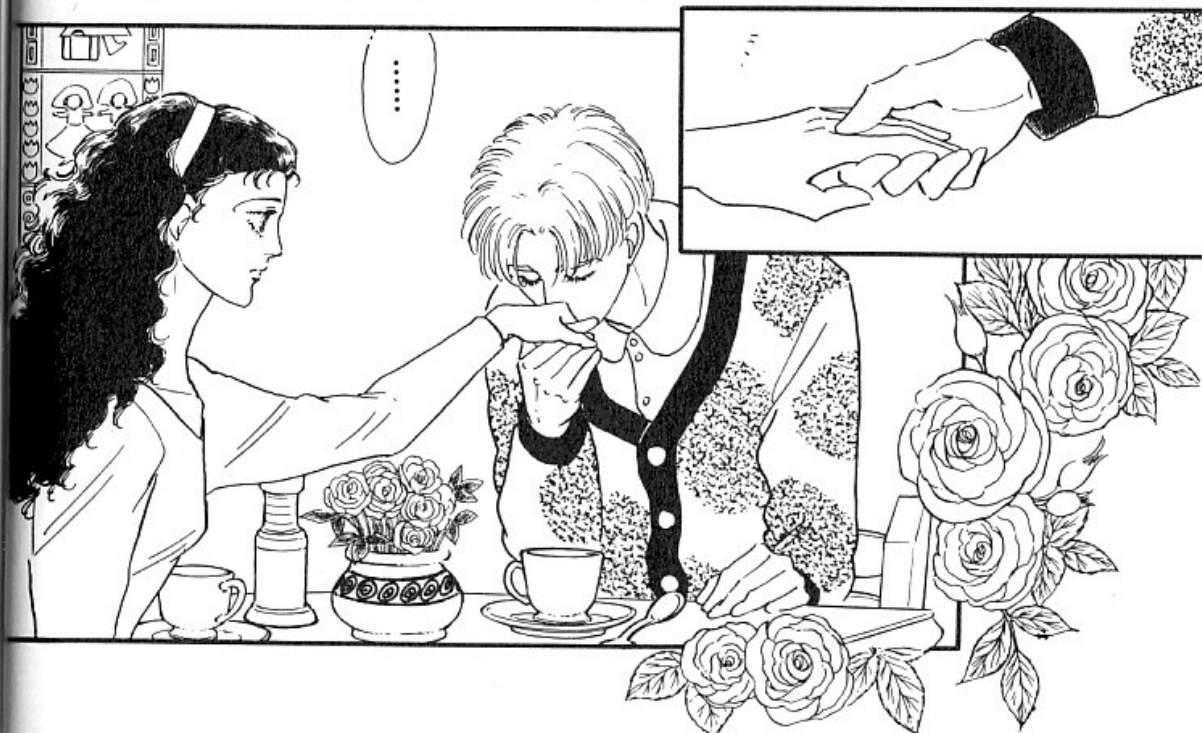
ききたく
なかった
こんなふうに
マリオ
マリオ
泣かないのよ
なのに
ぼくは自分で
この封印を
開けて
なにもかも
バラバラに
してしまった
マリオの
パパとママは
遠くに
いるの
ステキな
やさしい
人たち
だったのよ
遠くってどこ？
ローマ？
天国？
ねえ？
……
いつも
マリオの
ことを
見守って
いるのよ
みんな
ウソだった
ぼくは
殺人犯の
子供だった
あの家に
二度とぼくは
帰らない
もうぼくに
家はない

そして
いつか帰りたいローマも消えた
あそこに住んでいるのは保険金を目あてに父を殺した女だ
ぼくの知らないぼくを捨てた女だ
マリオ!

ウエラ
……!
けさブラッセルのおうちへ電話したら
パリ着の列車の時間を教えてくれたの
大変だったでしょ……元気……出してね…

あ
起きた？
ラエラ…
キャフェ？
それとも
オ・レ？
モカと
マンデリンが
あるけど
イタリア式
コーヒーも
つくれるわよ
モカの
オ・レが
いい
死ぬほど
熱くして
レッスンに
出る？
今日は
出るよ
体動かさ
ないと……
三日も
休んじゃっ
て…
……
あなたは
三日
いなかった

一人で――
わたし
さみしかった
マリオ わたし
……いつも
一緒に……
いたい…
ラエラ
ずっと…
一緒に
いてくれる？
マリオ
ぼくの
そばに？
ずっと
……？
――マリオ
……ラエ
マリオ
泣かないで
大好き
大好きよ
……ラ……

なにもかも
消えたけど
ぼくは　まだ
存在している
また
下宿人
探さなきゃ
いけないなー
お世話に
なりました
レヴィ
きみは　いい
下宿人
だったよ
ども
そばには
ラエラがいる
そして
バレエが
ある
いーわねー
あんたたち
同郷だったん
ですってね
そうなの
シルビア
マリオと
一緒で
一番
うれしいのは
イタリア語で
おしゃべり
できるって
ことなの
ね
マリオ
…うん

マリオ
あれ
飾らないの？
いまは……
ちょっと……
シモーヌ母さんを…
思い出して
悲しくなるから
ごめんね
気づかなくって
いいんだ
ほら
家族の
クリスマスの
写真
あ
考え
なければ
いい
あら
マリオ！
これ 大事なもの
なんでしょ？
……あ それ
捨てていいんだ
家で
きいたら
全然
知らない人の
だった
気持ち
悪いだろ
ポイ
金髪の
髪の毛
でも……
忘れて
しまえば
いい

きっと
これからも
なにも
変わらない
ぼくには
ぼくの
人生が
ある
ただ
いまー
お帰り
寒かった
でしょ
花
わ
キレイ
待って
すぐ
夕食よ
おいしい
ん
ね？
イタリア
本場の
味よ！
……

誓うよ
きみとバレエがぼくのすべてだ
……寒いといつもローマの夢を見る……
永遠に……愛してるよラエラ
でもこれからはあなたの夢を見るわ
いつか
二人で行きたいわねローマに…
ローマは……
消えたんだ

ステキ ラエラ
もともと きれいな 踊り方 だったけど
甘やかさが 加わって きたみたい なんか……
愛ね
シルビア だって 彼氏いるんで しょう
キッパリ
いないわっ
パリに 出るとき 彼氏とは 大ゲンカ して 別れたの バレエが 恋人よっ
もともと うまい やつだった けど……
……ウン
切れるように うまくなっ ちまったね

レヴィ
いやー
がんばってるねマリオ
なにのん気にほめてんだい
追い越しちまうぜ
ぼくが怖いのはきみじゃないね
彼さ
えつ……
ディディ!?
あんなよろけてるやつが!?
ど
どうして
……
ん
レヴィ!
ドミ・ド・リール!!
ラエラも!?

来年3月のガラ公演に
レヴィとマーローンとラエラで「熱帯夜」をやるから
20分の新作だ明日から振り付ける
わわ
すごおい
ラエラがベテランのマーローンと……
実力若手のレヴィとトリオを……
もうビックリだわ!
作品はねわたしが最初旧世界の人間のマーローンと〝支配と従属〟の関係で暮らしててそこに〝新世界の人間〟のレヴィが来て
対等な愛と自由に目覚めるというものなの

ヤッホーッ
メリークリスマス
押しかけちゃったぞー
ディディ シルビア いらっしゃーい
ラエラの成功を祈って!
次の春のガラ公演の目玉よ がんばって!
スポーン
ドミはあたしのイメージにピッタリの役だっていうの
あたし そんな従属型じゃないつもりだけど
相手はプロよ 目は確かよ
ドミ・ド・リールを
つい前までド・リールと呼んでたのに
もうドミか
人を見る目が確かならなぜぼくに役が来ないんだ
いやあ
こんどはディディもぼくらと同じ旧作のモブなんだぜ
前の公演じゃディディはがんばったのに冷たいんじゃないド・リールは

いや
ドミは いつも
キャラクター
イメージを
優先させる
から
「ライモンダ」の
弟役なんて
マグレマグレ
マグレな
もんか
あのレヴィが
おまえに
一目置いて
るんだぞ
ドミが
マリオに
ピッタリの役を
振り付けたら
すごいだろ
うなァ
一躍
スター
だわ
!
そーよ
ねえ
ジュテ
グランジュテ
ブリゼ
なんでもできるぞ
なぜ
ぼくは
ドミ・ド・
リールの目に
とまらない
んだ
出遅れた
ような
不安……

誰かがぼくのことをしゃべっている
マリオはどうしていたの…？
マリオは奥の子供部屋でよく眠ってたわ
カゼをひいてて薬を飲んでね

だから台所の騒ぎのことはなにも知らないのよ
よかったわ
シモーヌ母さんだ…！

マリオにはわたしは死んだっていってね
アンナ姉さん

かわいそうにあんなに泣いてシモーヌ母さん…！
アンナ姉さん
どうしてウソをついたの

最初から夫婦ゲンカしたっていってれば…
アントニオはじき目の手術をするから……
治ったらまた働けるって…
いってたでしょ
どうしてウソをついたの
床そうじしたりめん棒を洗ったりするから
保険金目あてなんてひどいことをいわれて……
マリオと離れたくなかったから？
事故ですめばマリオと一緒にいられると思って？
それがウラ目に出たというのか？
……ごめんねシモーヌ
こんなことになってしまって
アンナの顔がわからない
ベルギーに行っても元気でね
わたしのせいでローマに住めなくなってごめんね
ああそうかこれは夢なんだ
夢とはいえ知らない顔は見えないんだな
ハサミ貸してもらえます

捨ててしまった髪の毛だ…
……
マリオにはなにもあげるものがないから…

手紙書くから……

シモーヌ決して書かないで

写真も焼いてもうわたしにかかわらないで
これは遺髪よ
もうわたしは死んだのよ

死んだのよ
死んだのはシモーヌ母さんだ

おまえはローマで生きてる

新年——
春の公演に向けて
レッスンがはじまった
そのターン
もっと早く二人できみを取りあってるんだから
まだかかりそうだね
ごめんね先に帰ってて
チョロチョロすんなよ目ざわりだ
こっちは集中してんのに
ムッ
…ちょっとキャリアがあると思って…

ただいまーァ
くたくたよ
フウ
お帰り
オーブンの夕食あっためるから
ああ山盛りのスパゲティミートソースが食べたい！
グゥ〜
でなけりゃ熱あつのパスタ！
……
ドイツ風ハンバーグだけど
あいただきます
きみはさ
フランス語で……話そうよラエラ
モグ
13歳までイタリアにいたから
イタリア語はペラペラだろうけど…ぼくはさ…

ぼくは頭を切りかえなきゃいけなくて……
でも…いいじゃない
いつかローマに行く日のためのレッスンよ

きみがイタリア語ばかりしゃべるせいでぼくの
イラッ
フランス語のアクセントが変になるし……！

え……！
で
でも…

イタリア語をしゃべれてうれしいってマリオも……
…
ぼくはイタリア語が苦手なんだ！
そういってるだろ

きみはイタリア人ならいいんだろう
イタリア語がしゃべりたいだけなんだ
マリオったら!!

どうして
そんな
いじわる
いうのよ！
どうして
いじわる
いうの！
そんなの
そんなの
これまで
いわな
かった
じゃない

イタリア語が
そんなに
苦手なんて
……
知らなかった
わ

ごめん……
ラエラ……
ごめん…！
ごめん ラエラ
取り消すよ

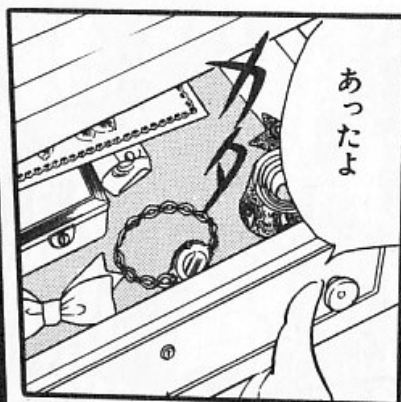
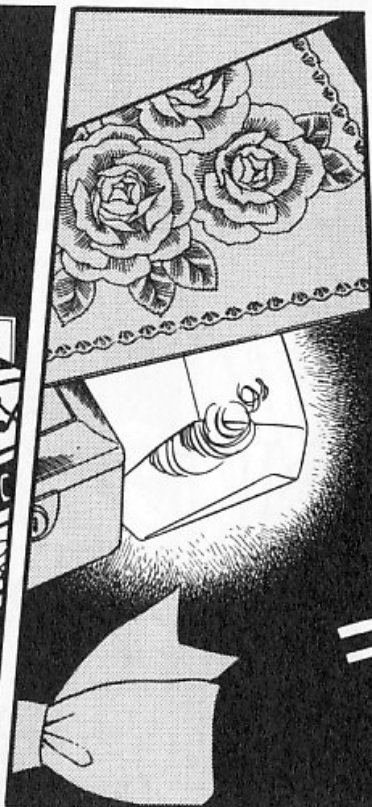
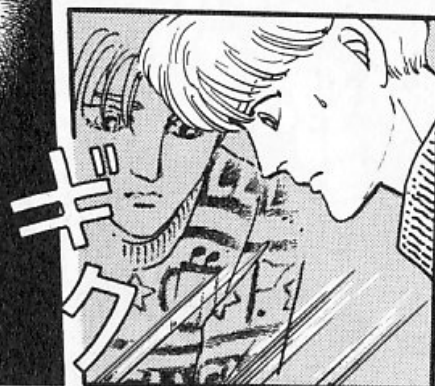
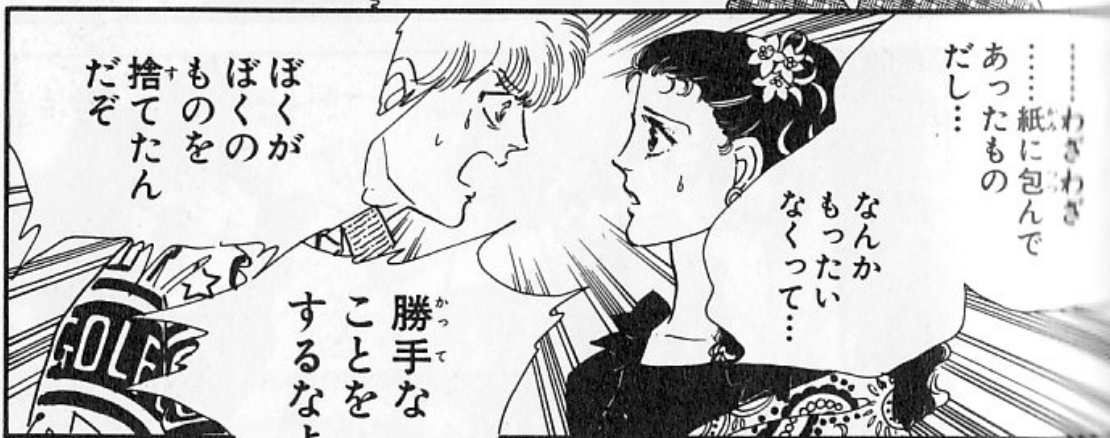
取り消す
いまのは
うそだ
……

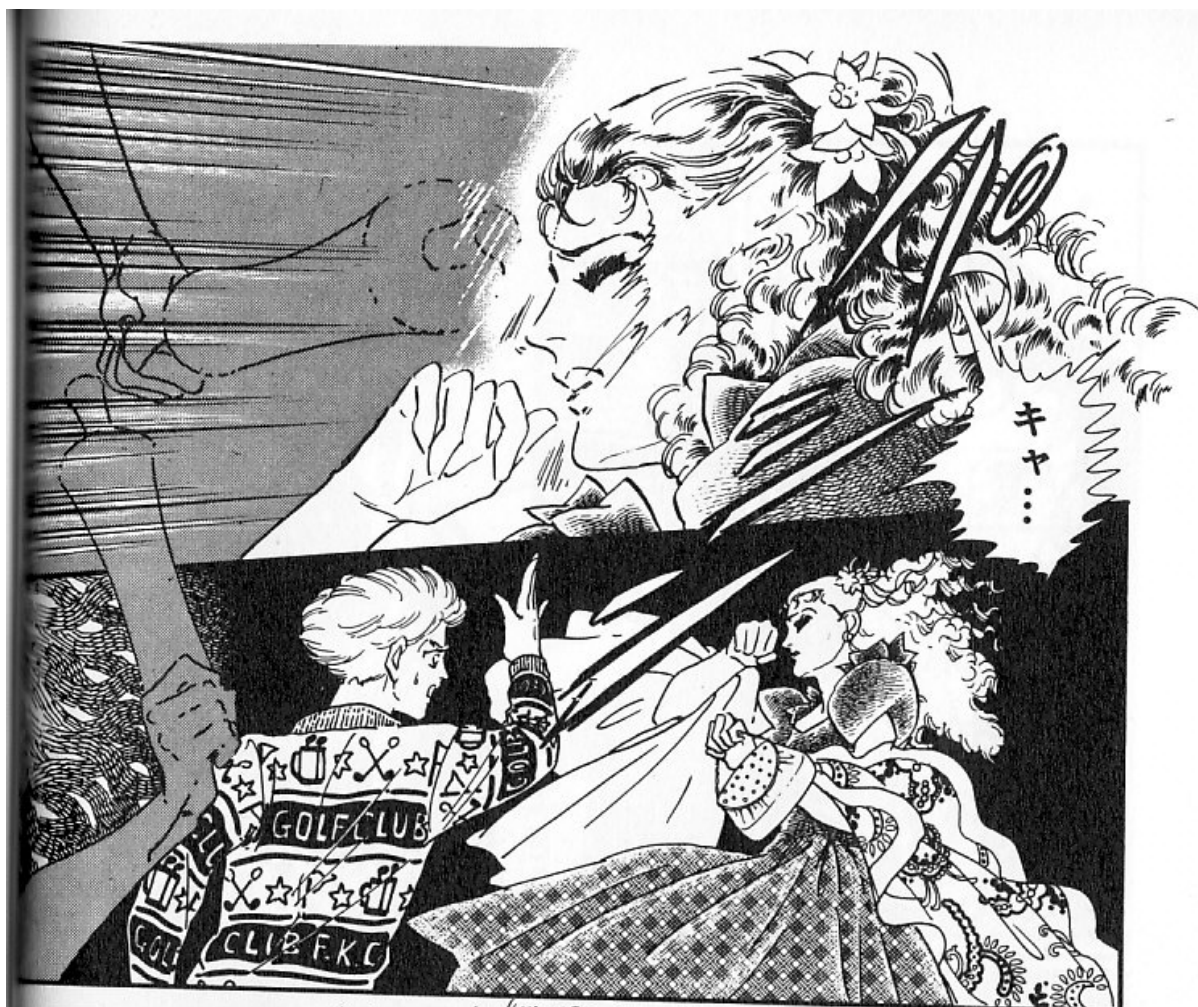
あたしこそ……ごめんね気づかなくって…
あたしのために
無理して話しててくれてたのね
……これからはフランス語を話すわ
ラエラ
ごめん

ブラーボ！
ブラーボゥ！
春の公演は
ラエラ自身とまどうほどの盛況だった
ワァァァ
パチパチパチパチ
よくやってくれた！きみにとってこれは記念すべき公演だよラエラ
きみは確実に新しい一歩を踏み出したのだ
…こんなことはド・リールは前ディディにはいわなかった

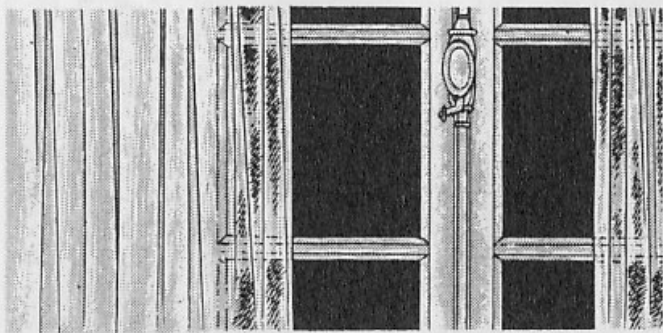
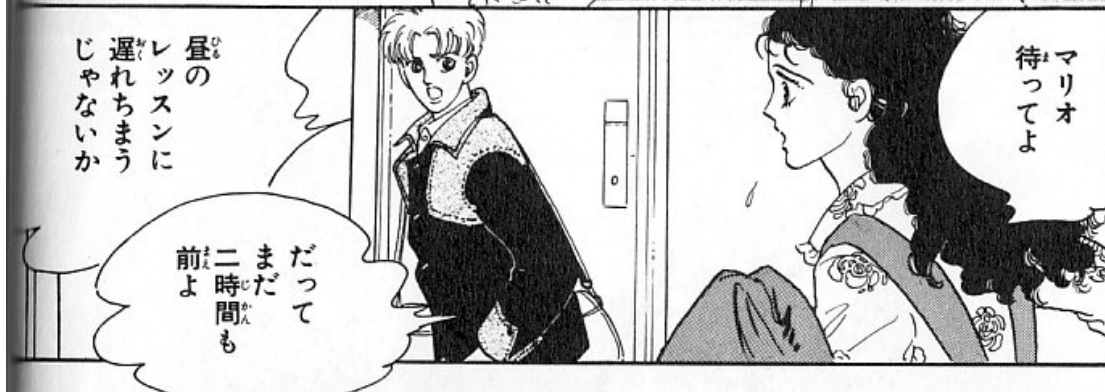
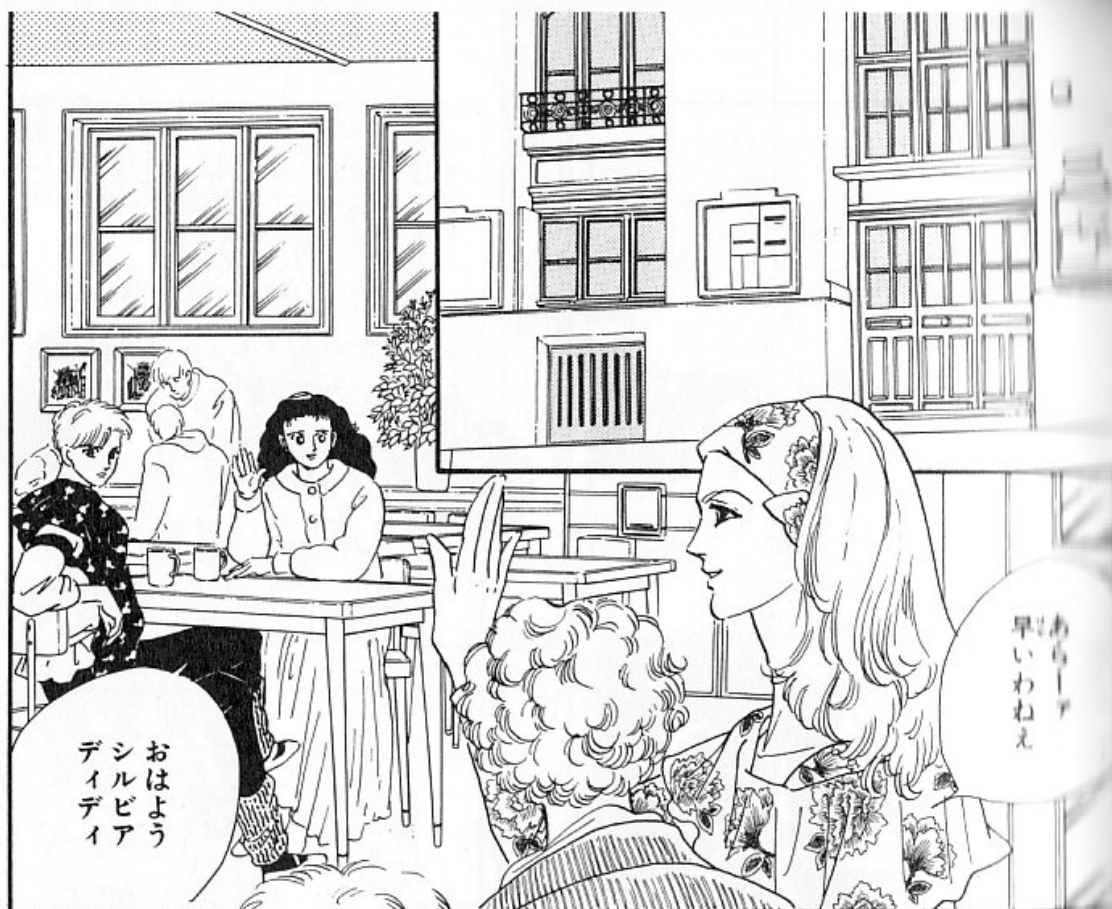
バレエ団内ではラエラにシットと羨望と一目置いた目線がそそがれるようになった
ハーイラエラ
この本にも載ってたよ
ドミ・ド・リールに実力のあるスター誕生
ピュアなムードがテーマに似あっていた
ほめすぎよ
なんかレヴィって
きみになれなれしいね
急に一人前みたく扱われるようになって
どう？
ステキだよ
今日はテレビ局のパーティーだっけ？
おたおたしてると
レヴィが助けてくれるのよ
そうなの「熱帯夜」を放映するのでインタビューを受けるの

ラーラはチャンスをつかみ
成功への階段を上つていく
ぼくには―チャンスは来るんだろうか
まるで今日のわたしはシンデレラ
この日の成功を見守ってくれたパパとママに知らせたい
なんてねインタビューに答えるの
ぼくはドミが踊らせてみたいダンサーじゃないんだろうか
小さい頃あこがれてたスターになったみたい
そういうの空想しなかった？
遅れるよ
早く帰るわね
アッ時計……
鏡台だわ
あ取ってくるよ

カタ
あったよ
ギク
あった？
マリ…
なんだよ
これは

あっ
それ…
捨てたものが
なんできみの
鏡台に
あるんだ
あの……
だ だって
人の
髪の毛だし
……
捨てるのも…
……わざわざ
……紙に包んで
あったもの
だし…
なんか
もったい
なくって…
ぼくが
ぼくの
ものを
捨てたん
だぞ
勝手な
ことを
するなよ
捨てたん
でしょ
なら
拾ったって
いいじゃない

キャ…
GOLF CLUB
CLUB F.K.C
イタリア語でしゃべるなよ！
………

どうして
そんなに
怒るの
……
あたし
そんなに
いけない
ことした？
どうしてよ
マリオ！
ぼくが
いつか
舞台で
成功する
成功して
スターになる
すると
インタビュアーが
やってきて
たずねる
さぞや
あなたの
御両親も
お喜び
でしょう

両親ですか
ぼくの父は
母に
殺されました
母は7年
服役
していました
実は
ぼくはその
息子です
これは
呪いだ
ぼくに
一生
ついてまわる
ローマの
呪いだ

ラエラ!
待って
早くしろよ!
ぼくはもう
行くからな
緑のリボンが
見つからないのよ
マリオ
待ってよ
昼のレッスンに遅れちまうじゃないか
だって
まだ
二時間も
前よ
ぼくは
きみみたいに
有望な新人じゃ
ないからな
ちんたらして
られないよ

あらーァ
早いわねぇ
おはよう
シルビア
ディディ
あー
よかったわねー
四人とも
無事
二年目の
契約
とれて
いいけどさ
今年は ちゃんと
踊りたいよな
今年は
女の子 二人
新人入っ
たってさ
ドミ・ド・
リールには
ちゃんと
若手の起用も
してもらい
たいよ
やる気
あんのかな

年末には新作やるっていってたけど……
ここはさ古カブがのさばっててさいつまでも…
ブチブチ
だから若いヤツに役が来ないし…
えこひいきはあるし…
まァマリオならもっとあなたの才能をわかってくれるバレエ団に移ったらァ？
シルビア
どオぞォ遠慮しないでェ
ガタ
シルビア刺激しないでよ
甘やかしちゃだめよ！あんなの三流人間のグチよ！
ド・リールにはマリオぐらい踊れてもっと存在感のある男性ダンサーはゴロゴロいるのよ
グチをいっても役は来ないわ
ある才能なら見せればいいのよ

おや
早いね
リール!!
お
おはよう
ございます
チャンスだっ
あっ
あの!
ド・
リール!
ぼくの作品
見てもらえ
ませんか!
カチ
見ろ
!
いつも
早く来てた
かいがあった
じゃないか
5分の
小作品だ

なんていうタイトル?
あ こ これ
「春の鳥」です
春の明るい…
「春」「鳥」「夢」「ちょうちょ」
よくあるありふれた題材は平凡になりがちだ
あ…ありふれた…
平凡ですか……
個性が必要だ
もっと自分の心を解放しなさい
はあ……
創作とは自分の内面──心の秘密を知ることだ
それが個性となり独自の表現を生みだす

──秘密──ですか…
でも自分の中には…
マイナスの部分もありますよね…
そういうイヤな部分も踊りとして表現しなきゃならないんですか……？
自分のマイナスにもとり組むのが表現だ
自分を信じることだよ
イヤな部分も愛しくなる
……？そうかな
あありがとうございました
がんばりなさい
じゃ
ふう
話した
ドミに創作を見てもらった
ドキドキ
ドミにはげまされた
あディディさがしてたんだよ

……
ぼくは がんばって やっと この 段階だ
あいつは なにも しないのに
おはよー
オハヨー
フンッ
ドミは なんで あんなのが いいのか
ステキね
きゃっ
あ 今年の 新人たちか
そういえば ぼくも去年は ベテランの レッスンを見て ドキドキ してたっけ
え
ディディを 見てる のか……？

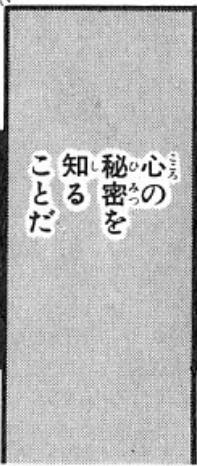
なんだか前より……
目立ってる……
いいね
ディディだろ
ああいうの華があるっていうんだろ
スター性を持ってるよ
一年でのびたね
腹筋がつくともっと安定する
いい買い物したねドミは
ラエラ
やアだア
一緒に入ったマリオはどうだい
若手じゃ技術はいいけどね
暗いよ踊りが
モブになると全然目立たなくなるし
舞台で栄えないね

あいつらだって モブのくせに…
なにを 評論家気どりで…
人の ことを ……
……
……ただの おしゃべりでしょ…
気にすること ないわよ
あなたが うまいのは みんな 知ってるわよ
みんなって 誰だよ
シルビア だって ディディ だって いつも ……
キャッ
なにを するのよ
ディディの 話なんか するな
レッスン場で ぎゃあぎゃあ じゃれあって みっともない
……
ムッ

なによっ
パァー
ガタタ
あたし
こんなの
イヤよ
こんな……
ケンカ
ばかり
……
……パパも
……ママをよく
ぶってた
あたし
だから
恋愛するときには
やさしい人と
恋に落ちる
つもりだったわ

だから
意地悪いわないで
やさしくして
好きなのよマリオ
ごめん……
ラエラ
マリオ
好きよ
強いマリオでいて
自分を信じることだよ
そう信じてるさ 自分を
いつも今に見てろって目をしてる
生意気でまっすぐなマリオでいて
心の秘密を知ることだ
秘密なんかあるもんか！
本当かい？

おまえは
踊れない
ディディのように
みんなが見るようには
踊れない
おまえは
秘密を
語れない
自信なんか
ない
才能なんか
ない
おまえの
内面を
見ろ
からっぽじゃ
ないか
捨てられた
子供に
自分の
なにが
信じられると
いうんだ
やめろ……

マ
マリオ!?
悪い夢?
な
なんでもない
すごい汗……
なんでもないってば!!
ラエラ
助けてくれ
抱きしめて
すがりつきたい
……
抱きしめて
なんていうんだ
母の殺人の夢を見たというのか

――いつものパターンだわ…
彼が怒り
あたしが泣き
彼があやまる
いつまで……？
一生このパターンなの…？
なぜ…？
なにがいけないの？
ディディのせい？
自分自身のせい？
あなたより才能とチャンスに恵まれた多くの人びとのせい？

9月だってのに暑いなあ
そろそろ年末公演の用意ね
そうだな
ドミは新作やるって話よ
ふーん
マリオに役がつけばいいけど
ラエラ！「火の鳥」のキャスト発表だぜ！
えっ
きみも役つきだったぜマリオ
新版の「火の鳥」ですって
ほほんとか？
見に行こう！
ついにぼくに役が来た！
すごいぞ！

ぼくの名前は？
ワヤ
ワヤ
ワヤ
あった――！
……青鬼……？
……なんだほとんどモブじゃないか……
……いちおう青鬼赤鬼黄鬼…のトリオ……か
……ちえ……
ほかは…？
王女が三人…？
ラエラが王女の一人だ……！
レヴィで…
火の鳥はベテランのアグネス……
これは当然だな
王子が……!!
ディディだって!?

ぼ ぼくう!?
イワン王子ィ!?
ドミ・ド・リール お得意の古典のモダン化だ
王子はラストに火の鳥と結婚しちゃうのよ
王女様とじゃなくって?
王女と魔王は本当はひとつであるべき分断された人格で……
統合された人格が火の鳥だってドミの解釈なのよ
で金の卵を割ることですべてが新しく生まれ変わるの
な なんか難しいね マリオわかる?
なんだドミのいつもの
旧世界から新世界へ移る話じゃないか

こんなマヌケに教えてやるもんか
一人で考えりゃいいんだ
タマゴやそ…
変に気をつかうなよ
ぼくは気にしてないぜ
王女は三人もいるんだから
あたしだってモブと同じよ
「火の鳥」の主役は王子じゃなく火の鳥なんだぜ
そ……そう?
王子は没個性の狂言まわしさ
主役は魔王のレヴィと火の鳥のアグネスだよ
ウロ
ウロ
気にしてるじゃない
どんな新解釈になるにしろ
魔王をレヴィがやる以上レヴィが一番さ

違う！
ハ ハイ
アグネスは味方でレヴィは敵だ！
違う！
王女は三人で一体だ！
目をキョロキョロさせるな！
ハ ハア
同じ振り付けのデュエットでも同じように踊ってはいけない！
違う！

ダンサーのお歴れきは小気味よさそうに見てるじゃないか
しごかれてるディディを
やっぱりみんなだってドミのえこひいきを快く思ってはいないんだ
少しは考えろ
今日はここまで！
じじ
あれあれ
あまりのふてきにドミを怒らせたぞ
これじゃあ先が危ないな

そんなに落ち込むことないわ
まだ練習はじまって一週間じゃない
……ダメだよ
期待されてるからキビシイのよ
ムリなのさ
そーよあたしなんかなァんにも役ないのよ
ボロが出るだけさ
……きみはいいなァマリオ
きみはなんだって踊れるもの
なんだってできるもの
い〜〜なァァァ
送ってくよ
はげましておいてね
ちゃんと歩けよ!

ぼくはダメだ〜〜〜
落ちたいのかっ
くそ突き落とせばよかつた
重いやつ
ぼくはきみになりたい
きみになりたいィ
こらっ放せっ
え
なにかあったのか？
ドミ!?
カギ
ディディの部屋の？

彼……
酔って…
しようがないな
世話かけたね
マリオ
……
マリオ
マリオのほうが踊れるんだ
なんでぼくに王子が来るんだ
あんたの目はフシアナだ
ドミ
いいか
きみが王子を踊るんだ
できないってば
踊れもしないやつに王子がいくはずだよ
あの二人できてんじゃないか
失敗すりゃいい
舞台で失敗すりゃいいんだ

鬼のシーン
OK
ホー
調子
いいね
そうとも
あんな
エコヒイキに
負けるか
青鬼は
いちおう
3分間の
ソロ・シーンも
踊れるし
ティティは
特訓とやらで
レッスンに
出てこなく
なったけど
その目が
ナマイキで
ステキ
よせよ
いま頃
どっかで
泣いてんのかな
ステキ
マリオ

この頃いいカオしてるね
「熱帯夜」公演のあと暗かったから
え ちょっと
いろいろあって
そう?
マリオとうまくいってる
ええ 彼いま調子いいからあたしもうれしいわ
愛してるんだカレを
……
どんっ
えっ!?
どどどど

ガバッ
シルビアッ
きゃ――っ
会いたかったっ
ド
よしてよっ
会いたかったっ
ムギュ
知りあい？
まるでサンタクロース…
……みたい
んー
フー

リヨンに帰ることにしたわ……
シルビア!
カレ?
そ 幼なじみ
ダイエットしなきゃ結婚しないわよ
ボン
きみがいなくってさみしくって食いすぎて
いい理由ね
母が二度目の心臓手術をするっていうし
ド・リールは若い女の子が二人も入って
「火の鳥」は役が来なかったし
一年パリでやっていい夢を見たわ
いなくなるとさみしくなるわ……
年末公演は見に来るわよ
遊びに来てね
ラエラと仲よくね
ケンカしないで

遊びに来てね──
必ず行くわ──
ディディ来なかったな
レッスンで出られないんですって
ぼくらのケンカの話彼女にしたの?
え
あなたがなぐってほおが赤けりゃ
きかれるに決まってるじゃない
でもこの頃はあたしたちケンカしないわね
……
……いつも後悔してるんだ……
わかってるんだ
いけないって
なのに……なんで……やるのかな…

小さい頃 ひどく なぐられたり すると
大人になって 暴力を 振るうんですって
へえ?
暴力を 学んでしまう のよ
でも
ぼくは なぐられた ことなんて ないけどなあ
一度 だって
でも…
人は 愛も 学ぶのよ
……愛も?
…でも
母は
父を
なぐって 殺したんだ

愛も？
暴力も？
その成長過程で人は
学ぶのか？
わたしは死んだのだといってくれ
ぼくは母から暴力を学んだのか？
おまえは捨てられた子供だ
ラエラ
ぼくはぼくは二度と
きみをなぐらない
手をあげない

そんなことしたらぼくを殺してもいいよ!!
マリオ
負けない
ぼくは負けない!
ローマの呪いには負けないぞ!
ぼくは生きる
ぼくは自信を持つ
自信を持つにはバレエしかない
自分を信じて生きるためにはバレエしかない
ぼくはやれる!
ぼくは踊る!

え
ディディが?
よくなってるって?
いやー最初はどうなるかと思ったけど
ドミの目は確かだったね
午後の通しげいこに出てくるよ
あれからたった二か月で……
バカな……
あ
お久しぶりーィマリオ
やーしごかれたって?
変わんないじゃないか……少しやせたぐらいで…
いやーまだ自信ないよォ
一幕から通しでやる音楽いいね?
じゃ位置について

さあ踊れ
とっくり見てやるぞ
特訓の成果を……
まるでこのデュエットは
火の鳥が王子にいいより
魔王が王子をかどわかしてるみたいな展開じゃないか……

翻弄される王子の
この危うさは
確かにディディの個性だ
みんなの見る目が
みるみる変わっていくのがわかる
三匹の鬼のシーンだ！
とらえた王子を前に
宴だ！
ディディに目をやらせるものか
このソロ・シーンだけは
ぼくを見てもらうぞ！

フィニッシュ！
ズバ

だいじょうぶかい? マリオ
おっと
あ
ああ……
ズキ
失敗した
ド・リールの目の前で失敗した
たった3分のソロ・シーンで失敗した
みんながぼくを笑っている
気にしないで着地がずれただけよ…
とてもよかったわよマリオ

ラエラ!
あ
な なんでも…ないの……
……
足が震える

踊れない
鬼の群舞だぞ マリオは？
さっき すべって 足が つってた みたい
代役 誰か 入って くれ
群舞シーンの 音楽だ
ほくぬきで やってる
なぜだ
たった これだけの ことで
こんな ガタガタに なるなんて

行くんだ まだ まにあう！
ぼくは踊れる
自分を信じるんだ…！
ラエラ
助けてくれ！
ラエラ……
レヴィ……！

落ち着けよ
マリオ

ぼくはちゃんと踊れるんだ

あんなの失敗じゃない

ディディみたいにひいきされなくったって実力でやれるんだ

ラエラとのけんかだっていつものことさ

……
……お帰りなさい
マリオ
夕食は
レンジの中
コーヒーは
ポットよ
いらないよ
うるさいな
わたし
ちょっと
……

……出かけるから
え？
二・三日か……
何日か……
……一人でいたいのよ
なんか…
疲れたの
レヴィだな！

あいつになんていわれた！
レヴィは関係ないわ
泣いてすがってたじゃないか！
あんな暴力男とは別れろっていわれたんだろう！
……わたし
ぼくがいつもモブだから
きみは一緒にいるのが恥ずかしいんだろう！
そんなこと思ってないわ
マリオもただわたし…
いいともきみは期待される新人だ！

いい気になって主役を踊って
ぼくの失敗を
ディディと一緒に笑ってるんだろう!
やめて
どうしてそうなるの!
じゃ なぜ出てくなんていうんだよ
やめて
そういうのがいやなのよ!
なにがいやなんだぼくは一生懸命やってるんだぞ…!
ディディなんか

寝たから
主役が来たんだ
えこひいきの……
じゃあなたも寝れば！
……
マリオ
わたし…ほんとうにどうしたらいいのかわからなくなったの
どうすればいいの？
なにをすればいいの？
どうすればあなたがわかるの？
……いつもあなたの顔色をうかがって……
……疲れたわ

……気持ちが……冷めたのか……
違う！
もう愛して……ないのか……
愛してるわ
愛してるのに……
わからない
どうして？
わたし自分のこともわからなくなってしまいそう
ラエラ
このままじゃ……ダメになるわたし……だから…
少し離れて…
ま
待てよラエラ！

待て！
だからって出てくことはないだろ！
一人で……考えたいのよ……
待てってば！
話し合おう
悪いとこはあらためる
もうどなったりなぐったりしない
前もそういったわ
ラエラ！
いやマリオ！

やめてってば!
いうことをきけよ!
放して
あやまってるじゃないか!

ラエラ
ガタガタ
ラエラ
キャ
見捨てる気か！
ぼくがモブだから
失敗したから
レヴィとうまくやる気か
やめて…

ガタ
ダダ
近寄らないでっ
出てって!
なぐるのか
出てってよっ
なぐれよ
寄らないで

なぐり殺せ！
……
どうした
やれよ
やめろ
やれよ
おまえがやらないならおれが殺すぞ
やれよ！
やめろマリオ

なぐれ！
なにをする気だマリオ
止めろ
なぐれ！
誰か
なぐれ！なぐれ！なぐれ！
誰か止めてくれ――！

ラ…エラ
……!
ラエラ……
!
……!
ラエラ……
ラエラ…!
ラエラ——!!
…殺した
殺した
殺したんだ
母が父を
殺してしまった
ように

タッタッタッ
母と
同じことを
ぼくは
ギギギ
バチャ
パアーー
ブーー
そうだ
ぼくも
……死ななきゃ……
早く
ほら
ブオオ

マリオ!?
おい!
寝ぼけてんのか!?
マリオ!
……レヴィ…?

ラ……
マリオ?
ラエラを殺したんだ……
マリオ!?
こ これはローマの呪いな…な…
なん……
パン パン
ラエラはどこだマリオ!?
どこ!
へ…部屋……
ぼ ぼくが首を……

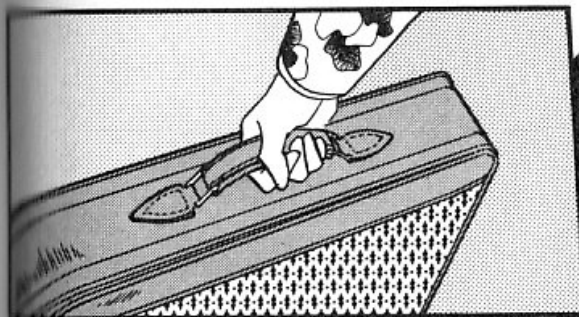
アパートだな！
来い 早く！
バチャ
バチャ
こ 殺し……
確かめたのか!?
救急車を呼べば助かるかもしれない
ぼ ぼくは床もふかなかったし
めん棒も洗わなかった
母はそうしたんだ
お母さんはこないだ亡くなったんだろう!?
!?
いいや！生きてる！あいつはローマで生きてる！
あいつはぼくの父をなぐり殺したんだ
その話をきいてからぼくは夢を見る
夢を見るんだ……
ななぐってる腕が…
腕が…

ぼくの腕なんだ！
それはいつのことなんだ？
きみが養子になってベルギーに来る前なら
手に――感触が――あるんだ――!!
四つか五つの頃のことだろう？記憶にあるのか？
…だから…ぼくはラエラを……！
ローマの呪いだ
母の呪いだ……
しっかりしろよ！マリオ！
……

ラエラ！
ラエラ？
ラエラ？だいじょうぶか？
レヴィだよ！
コン！
だ…
だ…れ
キィ
ラエラ…！
……レヴィ…

……
生きてる！
ラエラ…
キャッ
いや
ラエラ……
落ち着いて…
いやよ
やめて来ないで！
マリオはきみを殺したかと思ってショックをうけて……
いやよ

そばに来ないでそうよ！
あなたはわたしを殺したかったのよ
——ラエラー!!
ぼくは……
そんなつもり……
そうよ
あなたはあたしを憎んでる……！
あたしが…イタリア語でしゃべるから……！
あたしがレヴィと踊るから……！
ディディが主役だからあたしがほめられるから……
あたしが出ていくというから……！
ぼくは愛してる！

愛してる？なぜなぐるの？
あたしはサンド・バッグなの？
ラエラ！愛してる
悪かったこんな……
愛してるのはあたしよ！
あなたは愛してなんかいない！
あなたには愛なんかない！
こんなのは……愛じゃない……！
愛じゃない……！
あなたは人生において愛を学ばなかったのよ……！
……！

だから……！
わたしの愛が見えないのよ……！
きみの気分はどう？マリオ
いや…ごめん……
世話…かけて……
ラエラはとりあえずぼくの部屋に連れていくよいい？
ちょっと落ち着かせたほうがいいから
……うん
誰か呼ぼうか
いや…ぼくは…いい…
ラエラを…頼む……

明日
マリオにきみを迎えに来るようにいっておいたから
今夜はゆっくり眠って
……ありがとうレヴィ…
でも……もうダメあたしたち……
愛してるのに？
なんにも……
もう…
……わからない…マリオが……
……

マリオの
ローマにいる母親の話きいた?
生きてるらしいよ母親
どうもね
マリオを産んだお母さんは……
お父さんをなぐり殺したらしいんだ……
マリオが小さいときのローマでの出来事だ
いいえ…
ごめんなさい
いま……あまり考えられないの……
一人になったマリオはおばさんちの養子になって一家でベルギーへ来たんだ
なぐり殺…?
……なぜ…?
なんで…?
…
彼はそのうちその話をきいて
ショックをうけて何度も殺人の夢を見るようになった
そんなこと…
マリオはいわなかったわ
ローマにそんな悪い思い出なんか……
ローマには両親のお墓がある…
いつか訪ねたいって……
懐かしい…

……違う
そんな
話も……
全然
しなくなった…
……
シモーヌ母さん
…って人の……
お葬式から
帰ってから…
その——
お葬式で
—きかされ
たのかも
しれないいな
つい
去年か
じ自分の
お母さんが
お父さんを
殺した
って!?
……お母さんの
髪だ……!
金髪の
髪が…
あったのよ
マリオが
……
それを
捨てて
……
あたしが
拾って
……
マリオが
ひどく
怒って……
あれが
ケンカの
はじまり
だつたんだ

父さん……？
ごめん 夜中に…
あの…
住所…を知りたいんだ――
あの女だよ
アンナ
待ちなさい
古い手紙だがあるはずだ
ローマ郊外の小さな街のそばだった
パリの夜の雨を透かして
ぼくを手招くローマが見える……

バチャ
バタン
マリオ!!
さほどかたづいてないな
バレエスタジオのほうへ行ったのかしら
すれ違ったのかしら
ペペルギーの家かもしれない
もう少し待ったら?
待てない! レヴィ… 電話して…!
昨夜お父さんちに電話が来て……
チン
ローマの知人の住所をきいたそうだよ
え?
……ローマにいるのはマリオの……
じゃ…
……

マリオから連絡は？
リーーン
ビク
……
まだなにも……
カチャ
……
…マリオ…！
マリオ！
…いまどこ……？
ラエラ…
帰ってきて
ごめんなさい

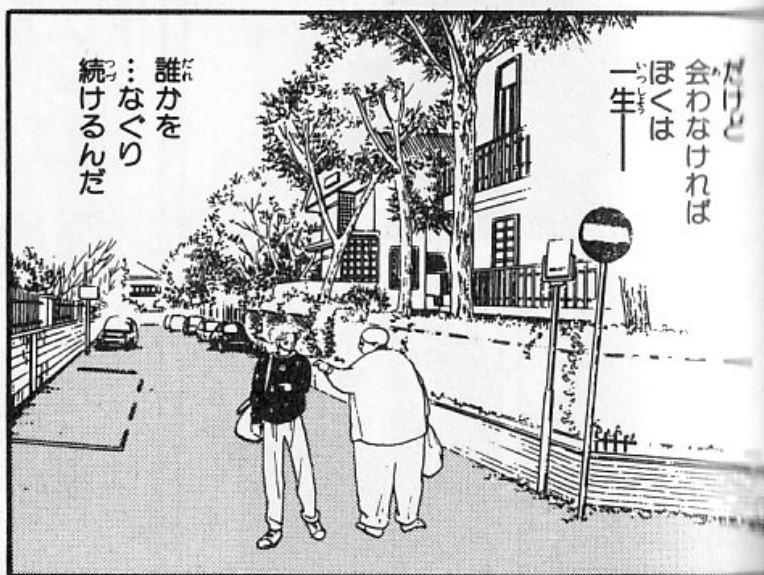
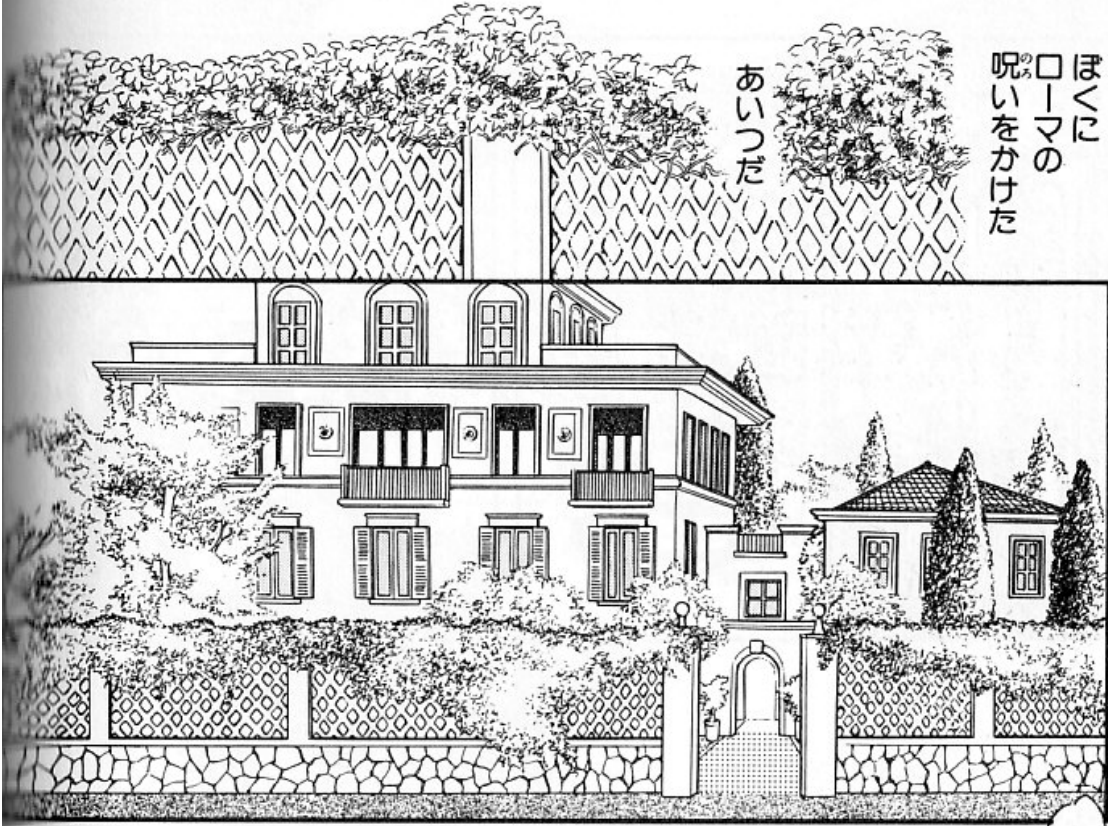
わたし ひどいことを いったわ
ねえ もう一度……
いろんなこと… 話しましょう ね
一緒に 話しましょうよ
……
話す…… なにを…？
愛を知らないのは わたしも同じよ……
だから これから一緒に… 教え合いましょうよ……
知らないものを…… どうやって…？
探せばいいわ
見つけるわ あなたと

きっとレヴィが…
きみにくれるよ
ぼくは……
さよなら……ラエラ
カチャ
マリオ!!
待って!
ラエラ!
ああ!
どうしよう…!
さよならなんて…
こんなのイヤ…
帰ってくるよ!
必ず!
バレエがある!
彼がダンサーなら
舞台に帰ってくる!!

ローマに
行く
バレエも
ラエラも……
ローマの呪いに
勝てなかつた
ついに
ローマに
つかまつた
そして……
そして
あの女に
——会うのか？
会ってどう
するんだ？
わからない
——わから
ない

Binario 5
5
6
光が……
違う……
なんか…古い絵を見てるようだ
パリともベルギーとも違う
この街の色
この木ぎの色
知らない街並み
耳につくおしゃべり

会うのがこわい

会ってどうするんだ!?

ぼくに
ローマの
呪いをかけた
あいつだ
……
数えてみればアンナはまだ50前のはずだけど…
こんなところに入ってるなんてもしかして……
…病気かも……しれない
どうする
行くか？
ほんとに会うのか？

ちょっと――ォ
いい
お天気ね！
え
ここに用なの？
え……
ええ
どうしよう

一人でいらしたの？
古い住所だ いないかもしれないんだ
どうぞ！
アアンナ・ジェセロ…という人は
ここにいる…でしょうか――
たぶん50ぐらいの――
わたしよ
シモーヌのお葬式には行けなくて申し訳なかったわね
……アンナ……！
……ぼくの……ローマの呪い……！

おまえだ
ついに
たどり着いた
いまこそ
おまえは
ぼくの怒りを
知るべきだ
おまえがかけた
呪いを
おまえに
返してやる

ソフィ
ほら
虫よけの
草
足りる？
アラ
お客？
アンナ
ええ
ちょっと
知りあいが
来てね
……
午後の仕事
ぬけていい？
いいわよ
お年寄りは
みな昼寝の
時間だから
おやつ持って
いきなさいよ
ビスケット
しか
ないけど
ありがと
こっちよ

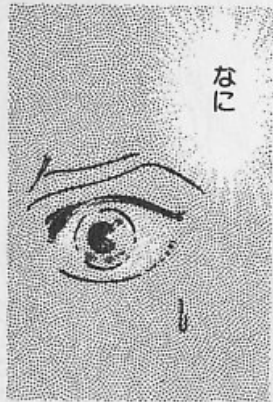
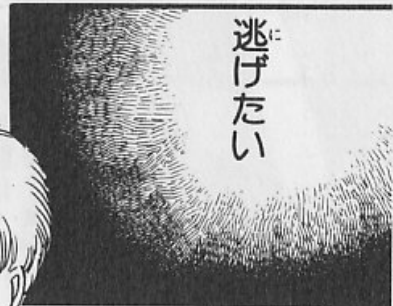
入って
ずっと……ここで？
…あの——
入院してるんじゃなくって……
そんな年じゃないよ
出所してからこの老人ホームで働いてるのさ
食事
洗濯
そうじ
カタ
庭木の世話
年寄りの話し相手……忙しいね
吸う？
いえ
いえ
シュッ
フー
……

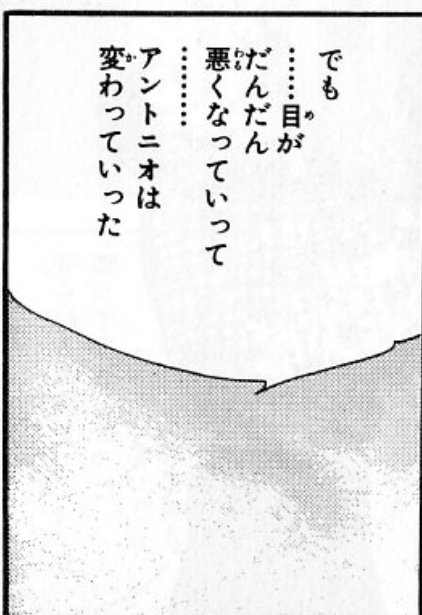
それで？
……
あ……
あんたに…
会いに
来たんだ
なんて
まのぬけたことを
ぼくは　いってるんだ
あー
……
それでって……
あ　あんたが
アンナだね
ぼ…ぼくは
マ　マリオ
だよ……
あたしには
子供は
いないんだよ
あんたの
父親は
いまは
ピエールで
母親は
シモーヌだよ
えっ⁉
……昔
ローマにいた
あんたの両親は
……死んでしまっ
たんだよ

な
なに
なんだと
そ
そうか
ぼ
ぼくに訪ねてこられて
そんなに迷惑か
そりゃ
そうだ
いまは
普通に
暮らして
ぼくを見て
過去のことなど
思い出したく
逃げたい
いや——
逃げられない
——もう
逃げるわけに
いかない!
あの……こと
……を…
ぼ
ぼくは……
き ききたくて
あんたの
口から……

……思いつめた
顔をして

門のところに
立ってるのを
見て
なにしに来たかは
わかっていたよ
お座りよ

カタン

あたしの
……
夫は……
腕のいい
ペンキ職人
だった

大男で……
強くて……
親分肌で
笑うときは
からからと
大声で笑った

でも
……目が
だんだん
悪くなっていって
………
アントニオは
変わっていった

アントニオは逆境に弱い人だった
順調なときは気も大きくなんでもできたのに
防衛はもろかった
仕事ができなくなると……
酒を飲んではあたしにあたるようになった
あたしは苦労にはなれてた
早くに父を亡くして母を助けて働いて
だからなんでもできるアントニオと結婚したときには
守られる幸福を知ってうれしかった
手術をすれば失明することはないということだった
ほんの少しのしんぼうだ……
あたしも働くし保険もあるから手術費も少しは手に入ると
はげましたけど
……アントニオは……酒を飲んでふさぐばかりだった

あの暑い日……
口論になってしまって……
酔ったアントニオと…
なぐりあいになって……
気づいたら…
こわかったので……
うそをついたけど
すぐばれた
後悔してもし足りない
アントニオ…は死んでしまった
目の手術もしないで…

……そういうことだよ
どうして……
ぼくを……
手放した——!?
もしあたしに子供がいたら
どうなっただろう
その子はなんと思うだろう
その子は結婚のときも友人ができたときも仕事につくときも
苦しむだろう
自分の母親が殺人犯——だなんて
誰に話せるだろう
死んだことにしてなにも知らせないほうがいい

関わりさえしなければ
あたしだって考えずにすむ
……考えずに……?
もう十分だ
あたしは考えたくない
……ミルクが冷めてしまった
このまま帰ろう
……来るんじゃなかつた
どうぞおあがり
なにを期待してたんだ

来るんじゃ——……
……
パ
こういうの昔よく食べた
子供用のビスケット
ガ
……
……

ガシャン
ミルクと
ビスケットの
味――
……!!
ぼくの……
ミルクと……
ビスケット……
な
なぐってた
あ　あれ
パパ　パパが
そ
そ
そうだ

ぼくは――
見てた
ぼくは――
見てた――
ぼくは――
コロコロ
ミルクが――
割れて――
めん棒だ！

なぐった
およし!
アントニオ…を……!
……殺…し…た……!
おまえは
知らない
はずだ
手が
覚えてる
!
ぼくは
そこにいたんだ
……!
そして
……
アントニオを
……

四つのおまえがどうやってアントニオを殺せるの……!
なぐった……感触が…
…あんたの目の前でケンカしたんだよ……
アントニオはひどく酔ってた……
ぐいぐいあたしの首をしめて……
そしたらおまえが
アントニオはあたしを放り出しておまえを…
泣きながらアントニオの足やおしりをたたいて……
小さいおまえを追いかけて……

あの人がおまえをなぐることなんてなかった
ドン
結婚して7年もして生まれた子だったから
宝物みたいに二人でかわいがって
おまえを
たたき殺すのかと思った
やめて
アントニオもその日はほんとにどうかしてた
あたしの子に手を出すな酔っぱらい
あたしもどうかしてた…逆上して……
気がついたら
アントニオがむせてて
ゴフ
ゴフ
おまえ……は…

声も出さず目を見開いていた
……
ぼくは……
そこらへんは覚えていない…
おまえをベッドに運んで
落ち着かせようと一時間ほど抱いてた
どうにか眠らせて
台所に
……
アントニオは……
死んでしまってた……
……信じられなかった……
あんな大男が……
強い人が……
あたしを守ってくれてた人……が……こんな……

そ…
それは…
事故だよ…！
ほとんど……

あたしは
そうじ
した……
ミルクも…
ビスケット
も……

ぼくが
なぐったことを……
隠そうと……
あたしの
やったことを
隠そうと……

ぼくを
かばったって
いってれば……

子供を
なぐるような
人じゃ
なかった

一言
いってれば
！
あたしは
知られたく
なかった！

あたしの息子に知られたくなかった！
おまえは──目を見開いて──
あたしが──アントニオを──殺すとこを──見てた──
事故だよ！
転んだなんてすぐばれるウソをついて
故意の殺人と思われてしまって──
あたしが…あたしが…
…なにかのまちがいだと思った…
人を殺したなんて…
アントニオ…
あたしだって…
信じられなかった……！

もう――
あたしを守ってもくれない
……甘えられも……

ピエールはあんたに話したんだろう
あたしは――

会いたくなかった!

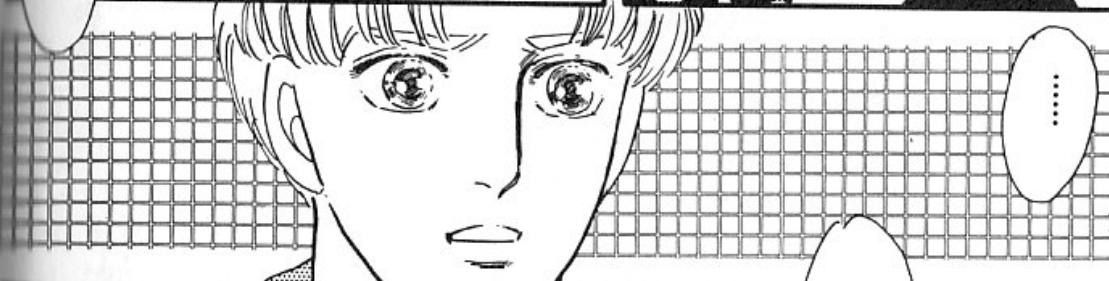
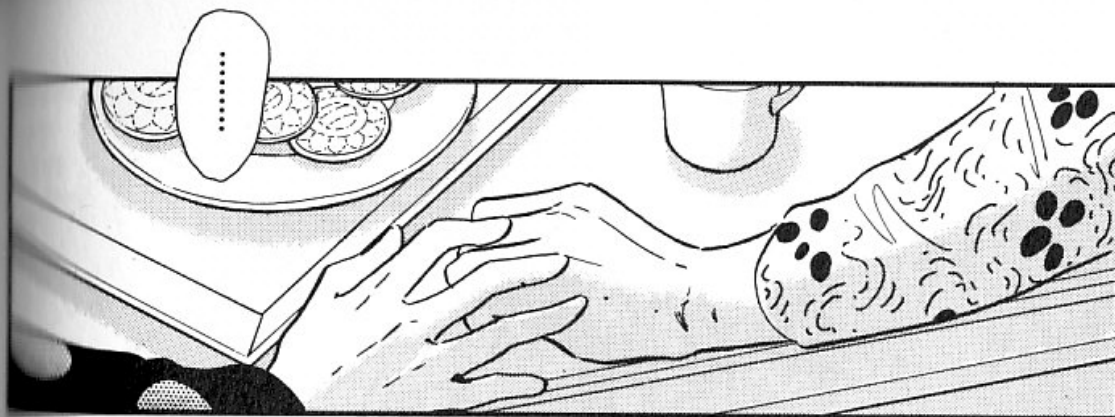
おまえに……あのことを……わたしを……
思い出してほしくなかった

死んだことにしておいてほしかった

心の……奥では……ぼ…ぼくを……許せないんだね……

なにをいうの！
ぼくは……なぜ あんたがぼくに会いたがらないのか…
あんたを…恨んでた
だけど…そのうち…
ぼくがなにかしたからだと……思ったんだ…
なにかわからないけど…
あんたはぼくを許せないから会わないんだと……
……違うよ！
そんなことじゃない！
あたしはあんたをダメにしそうでこわかったのよ
あのあと……ショックでおまえは泣いたり笑ったりしなくなって……食べ物も吐いて…
シモーヌが引きとってからよくなったってきいたのよ
あんなケンカを見せておまえまで悪くして
おまえに会ったら……こわしてしまいそうでこわかった……

許せないなんて……
許せないのは……わたし自身だ
あたしはあんたからすべてを奪った
父親を奪いローマでの生活を奪った
あたしはシモーヌからも平安を奪い……
アントニオからも奪った……
そしてあたしは失った
アントニオもおまえも…
時が過ぎることだけが救いだった

……
パッ
…
さあ…全部話した……もう終わりだ
…帰って……
……
そして
……
忘れるんだ
わたしは死んだ人間だよ
忘れるのが一番いい
…お帰り

帰る……
ぼくはここへ帰ってきたんじゃないのか？
ぼくはローマを取りもどすために帰ってきたんじゃないのか？
忘れようとしたよ
考えまいとしたよこの一年…
でもダメだった
知ってしまったことをどうやって忘れるんだ
どうすればいいんだ
忘れられないから来たんだ！

逃げるなよ!
ぼくは息子じゃないのか!
帰れっていうのか
また捨てるのか!

……マリオ!
こんなに大きくなって……
あたしの……ひざにいつも抱いて……
おまえは……とても小さくって……

ママ

ぼくは
あんたが
いとしい

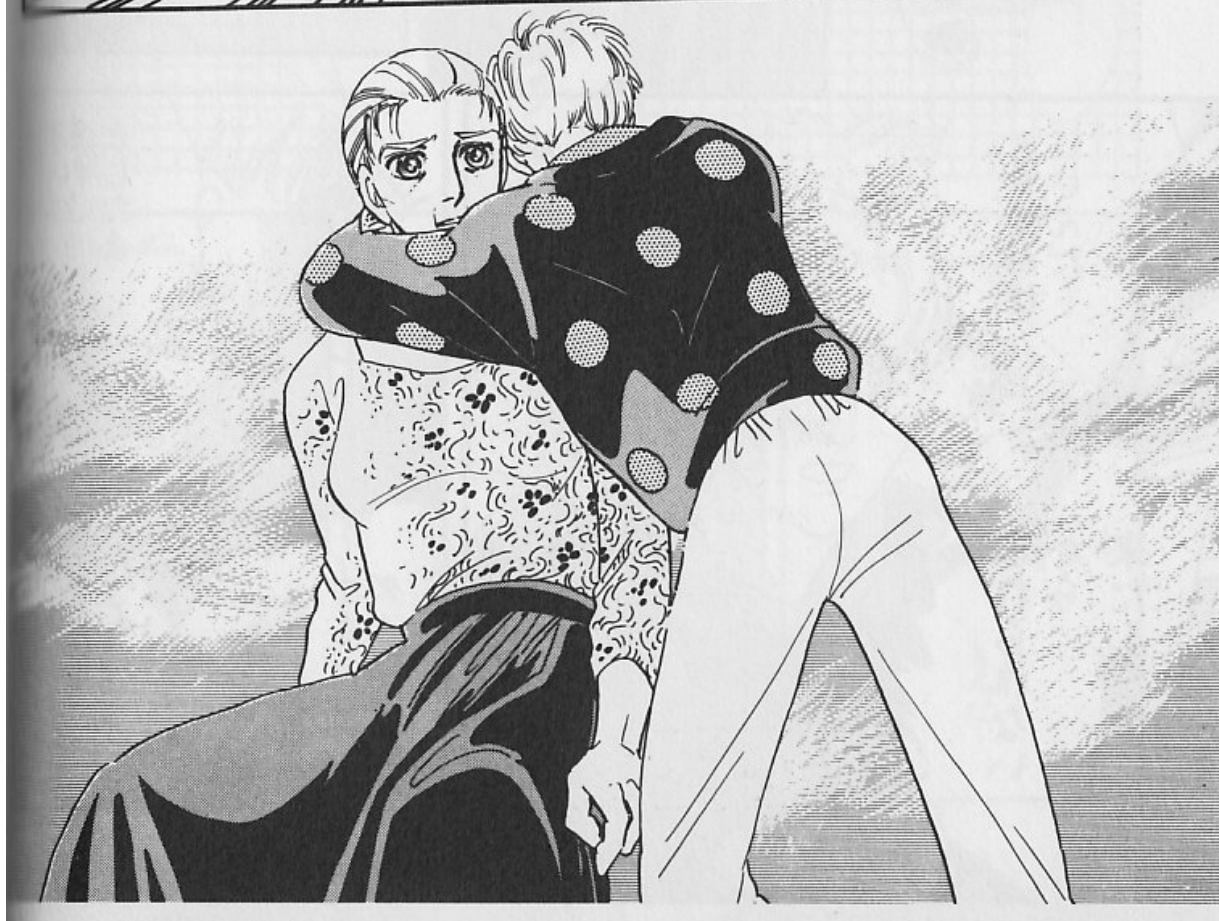
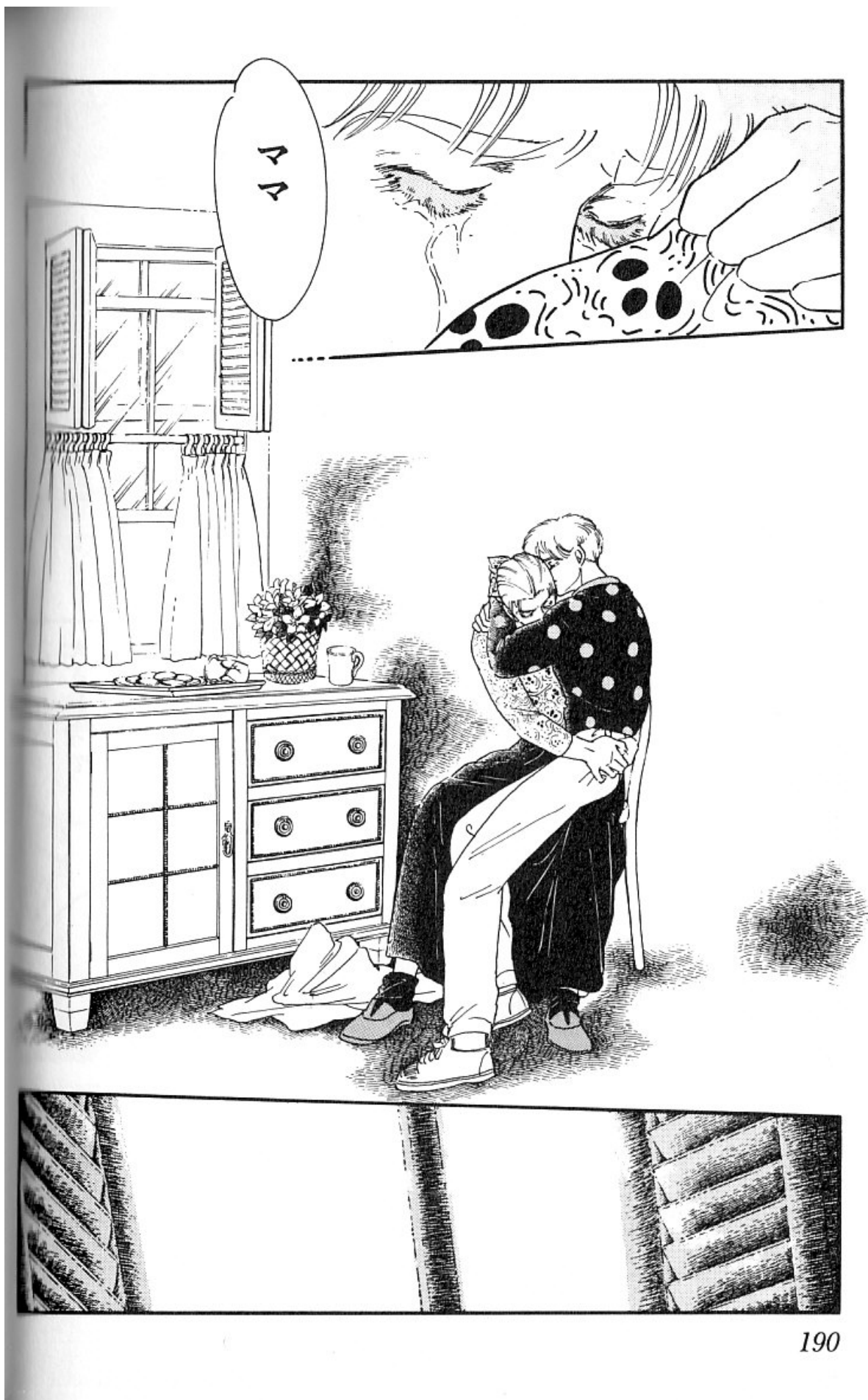
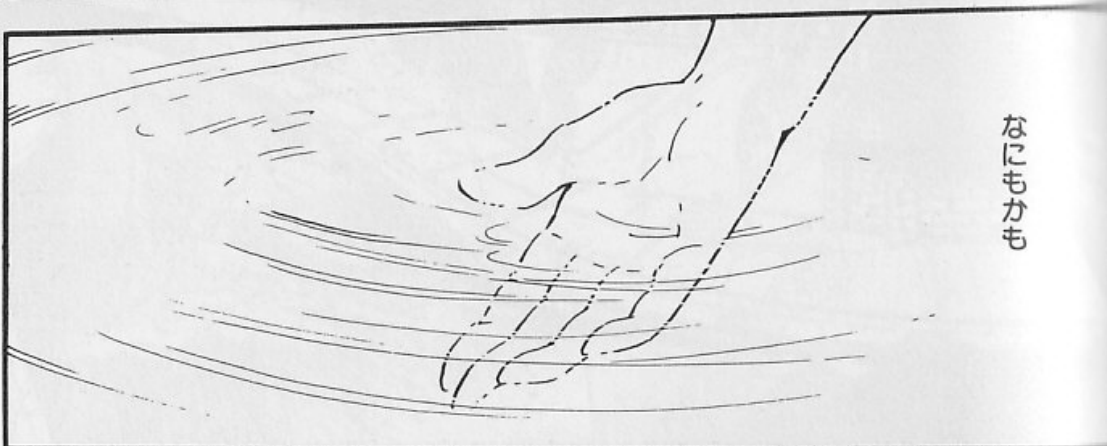
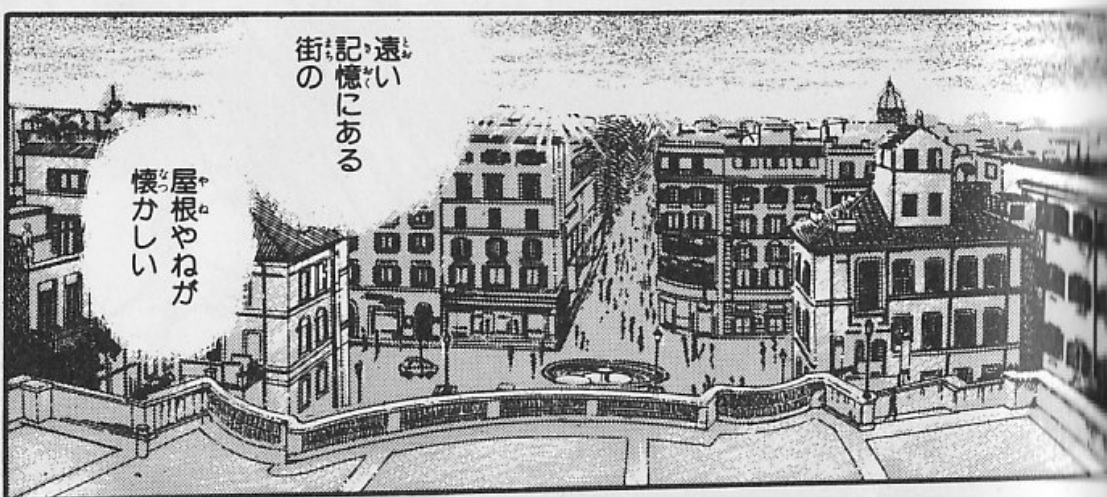
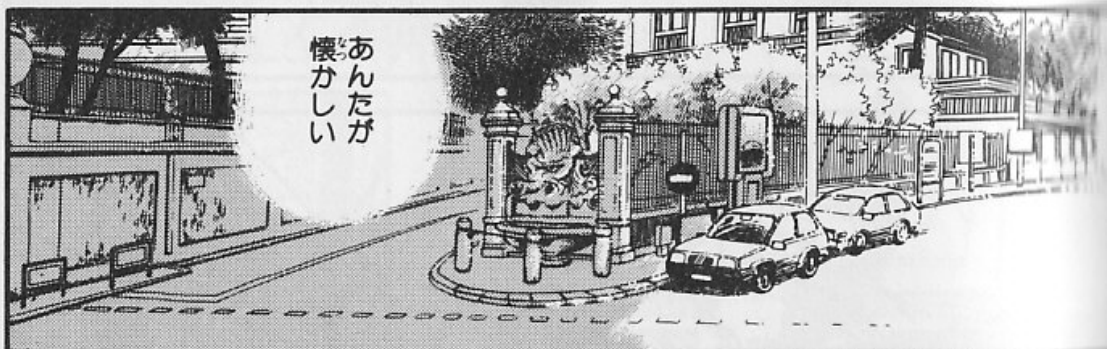
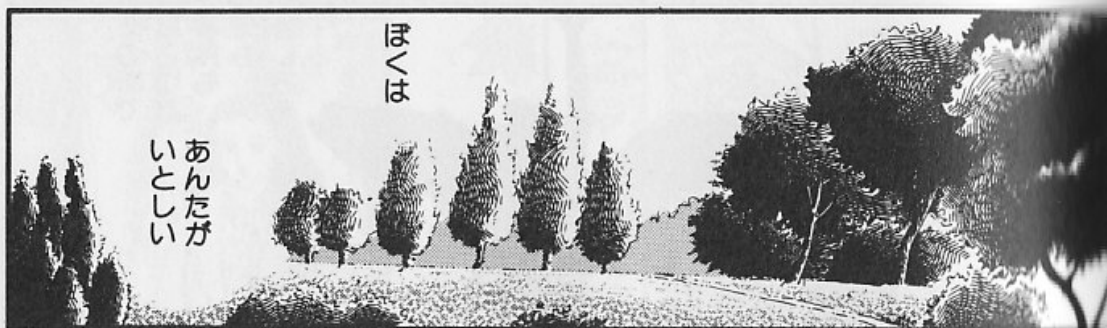
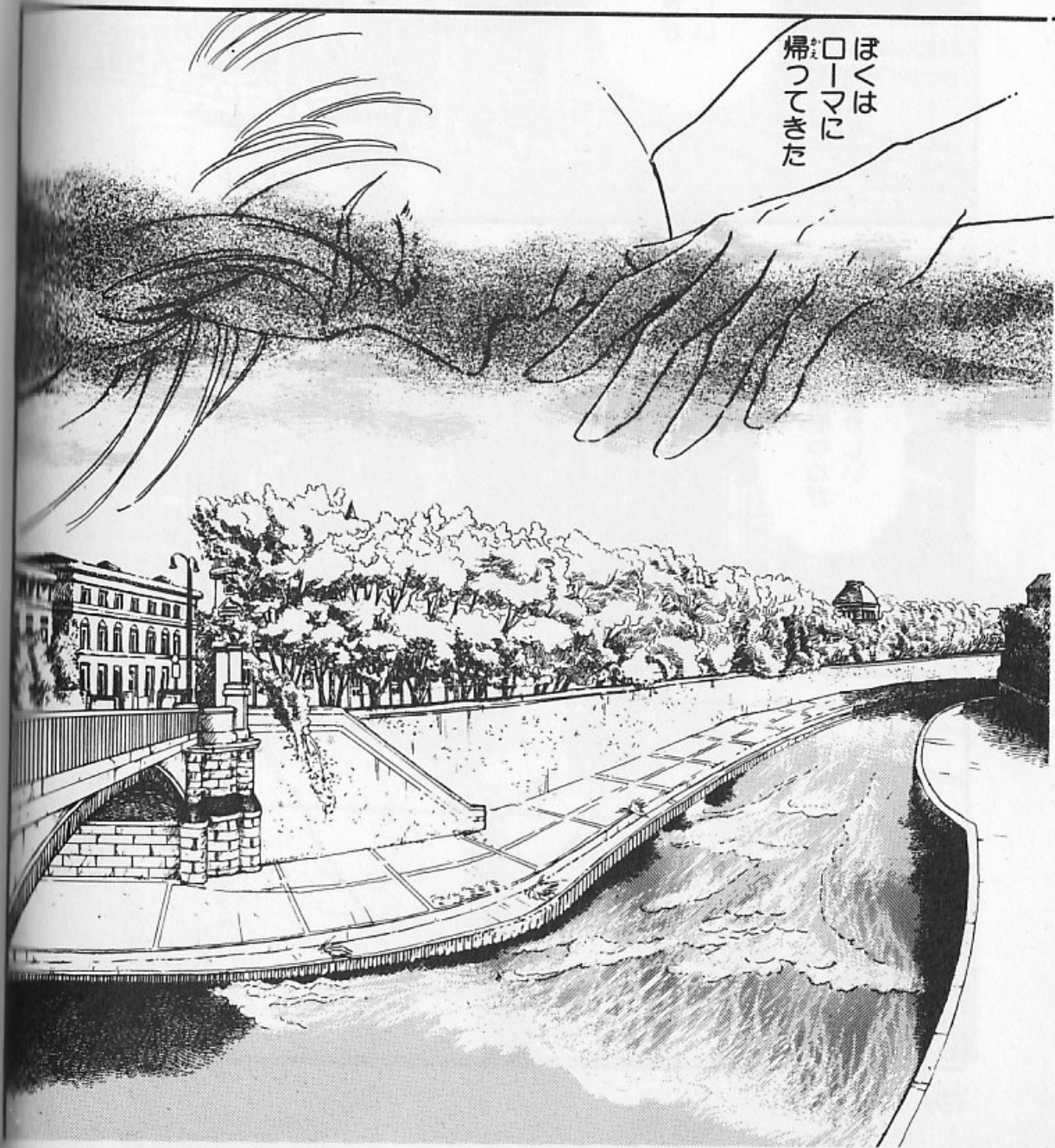
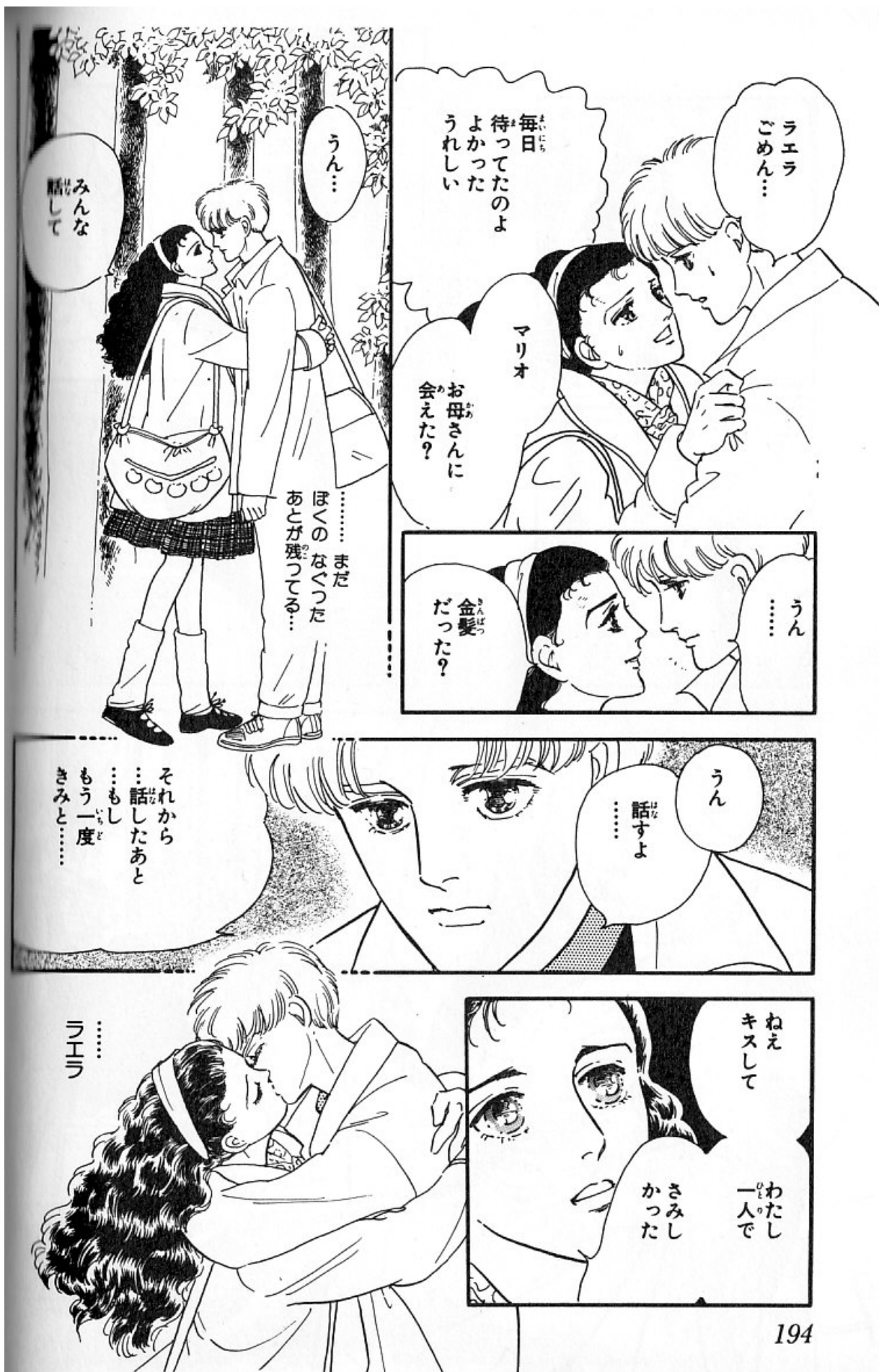
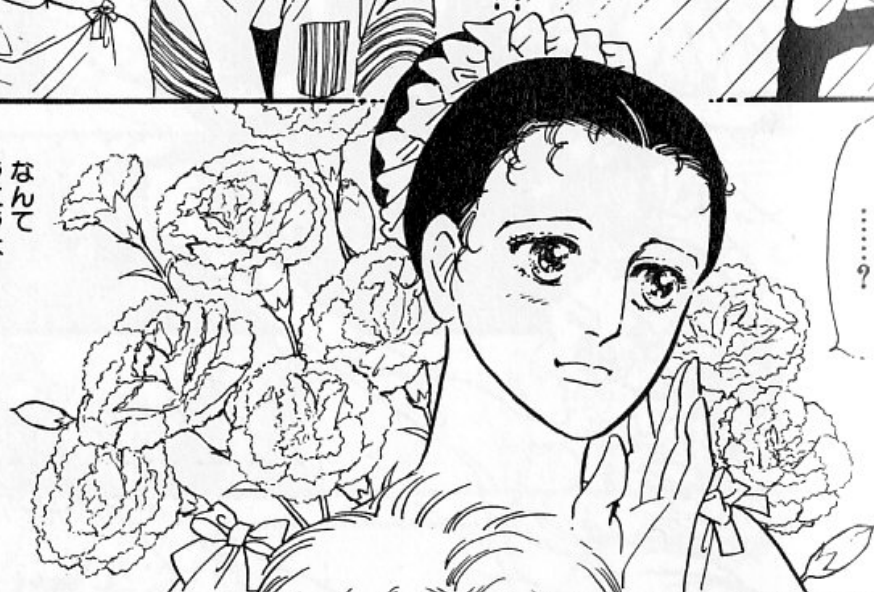
あんたが
懐かしい

遠い
記憶にある
街の
屋根やねが
懐かしい

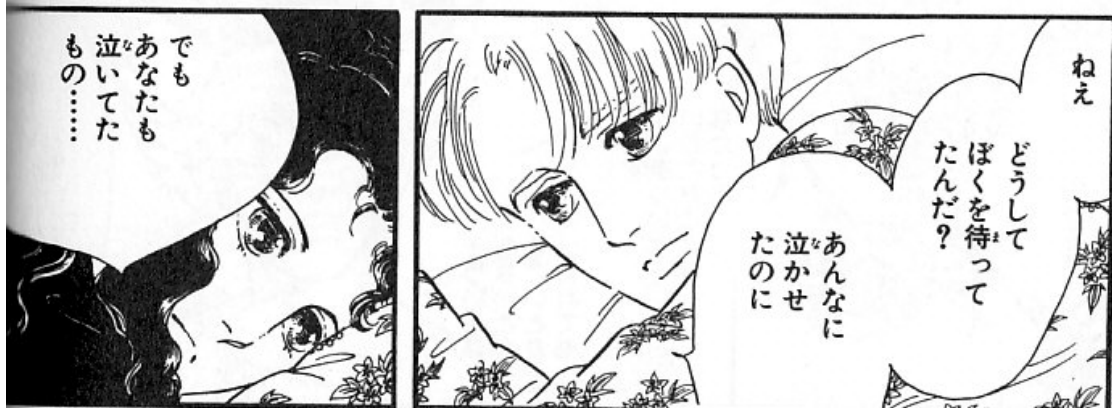
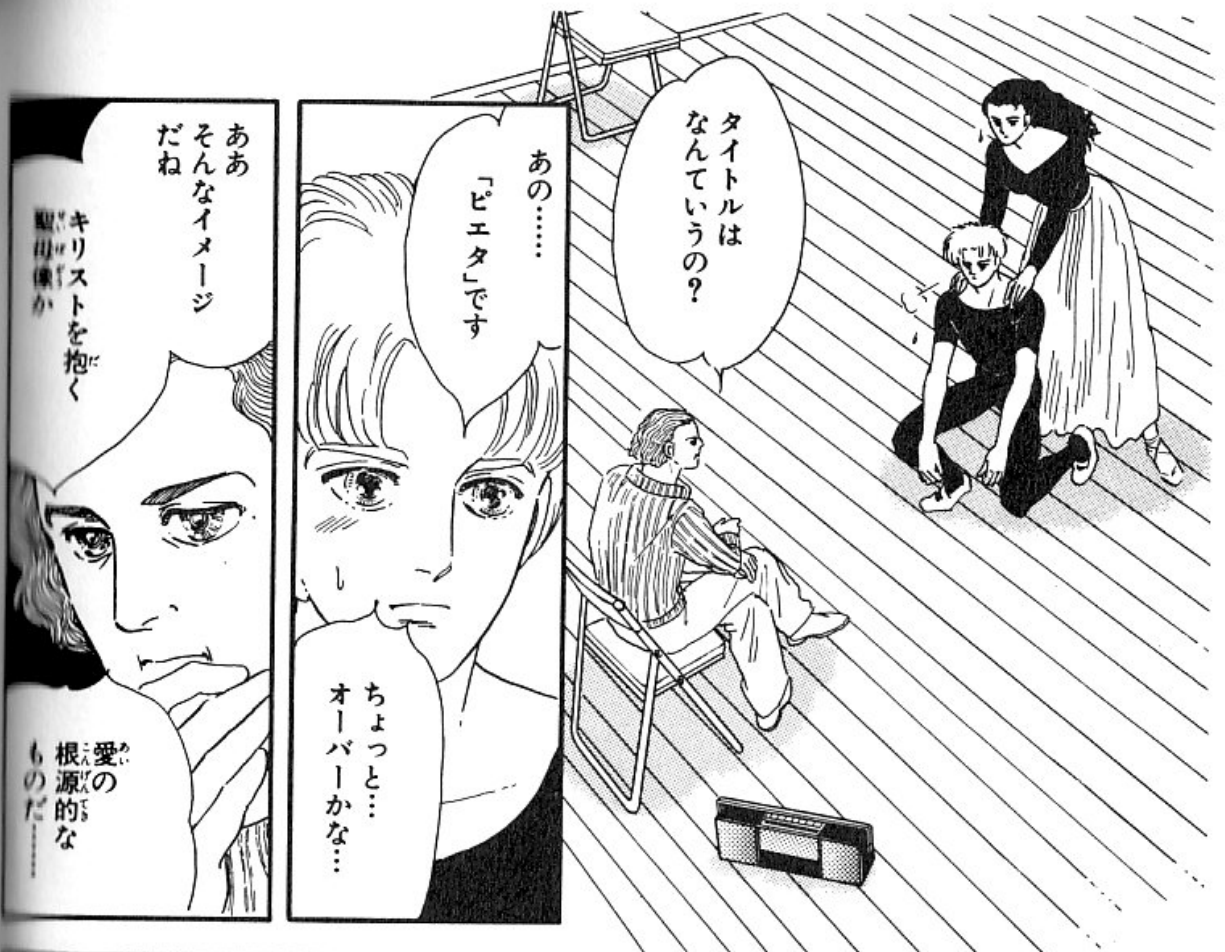
なにもかも

その街で
起こった
事件も
死も
苦しみも
……
別れも
いとおしい
ぼくは
ローマに
帰ってきた

マリオ…！
待ってたの
ラエラ！

ラエラ
ごめん…
毎日
待ってたのよ
よかった
うれしい
マリオ
お母さんに
会えた?
うん
……
金髪
だった?
うん…
みんな
話して
……まだ
ぼくの なぐった
あとが残ってる…
うん
話すよ
……
それから
…話したあと
…もし
もう一度
きみと……
ねえ
キスして
わたし
一人で
さみし
かった
……
ラエラ

やあ
マリオ
足の治療で休んでたんだって
もういいの
え? あ
…うん
やあ
お帰り
レヴィ
レヴィが
休みの
届けを
出してくれたの
ねえ
レヴィのほうが
ずっとやさしい
のに
どうして
ぼくを
待ってたの
う―ん
……?
なんて
ラエラは
きれいなんだ
ろう
ぼくは
ラエラに
母の話が
ちゃんとできて
ほっとして
いた
「火の鳥」の
公演は
目前に
迫っていた

「火の鳥」は
エレガントで
迫力のある
舞台に
仕上がっていた
鬼の
ソロ・シーンを
踊り終えた
とき

ポン
ハァハァ
ドミ・ド・リール!!
ぽかん
……
え
ぼくは……
どう踊ったか
覚えてない……
レ
レヴィ!
鬼のソロ・シーン
どうだったっ!?
シ
シビアに
意見いって
くれ
美しかったよ
美しい……?
そういえば
うまいとか
すごいとか
いわれても
……美しいと
いわれたことは
なかった
……
……

母から手紙が来た
王女役のラエラって子はステキだって
「火の鳥」のパンフレット送ったんでしょ?
お母さんなんて?
え——あたしのこといったの?なんて?
……ぼくの……さ…最愛の人……
母はしまっていたぼくや父の昔の写真を
最近部屋に飾ってるそうだ
ぼくらはイタリア語でときどきしゃべる
こんど……創作をやりたいんだ
パートナーになってくれる?
いいわよ
ねえ
どうしてぼくを待ってたんだ?
あんなに泣かせたのに
でもあなたも泣いてたもの……

創作は
ローマから帰る途中
浮かんだイメージ
だつた
女が追い
男が逃げる
男が追い
女が逃げる
音楽は
ヘンデル
くずおれる
二人
女が男を
抱き起こす
この作品を
ドミに
見てもらつた

タイトルは なんていうの？
あの……
「ピエタ」です
ちょっと… オーバーかな…
ああ そんなイメージだね
キリストを抱く聖母像か
愛の根源的なものだ……
……
2月のガラコンサートに出してみよう
思いがけず新春の小作品集の公演で
ぼくとラエラはこの創作を踊ることになつた

パチパチ
パチパチ
パチ
すごいなー
キレイだなー
その踊り
泣けて
きちゃったよ
ディディ
ありがと
ぼくの気負いは
どっかへいってしまった
ハーイ
シル
ビア！
パープーと
思ってた
ディディは
感受性豊かな
素直なダンサーだ
ステキな
創作だったわ
マリオ
あんたたち
うまくいって
るのね
え
わかる
わかるわァ
バレエに
愛が
あったわ
なんだか
この頃は
すんなりと
人の言葉が
心に届いて
いろんなものを
見直したり
見つけたり
してる
感じだ

ぼくは いつ
愛を
覚えたんだろう?
きつと
あの
母の住む
ローマへと
至る道の
光と──
影の
中で──……